

## ②2016年度 基調編

1	2016年度	公益社団法人日本青年会議所	会頭所信及び基本資料	77
2	2016年度	公益社団法人日本青年会議所	近畿地区協議会 会長所信及び基本方針	92
3	2016年度	公益社団法人日本青年会議所	近畿地区 京都ブロック協議会 会長所信及び基本方針	93
4	2016年度	公益社団法人乙訓青年会議所	理事長所信及びスローガン・テーマ	94
5	2016年度	公益社団法人乙訓青年会議所	基本計画、委員会・会議体活動計画	101
6	2016年度	公益社団法人乙訓青年会議所	第2次収支予算書	105
7	2016年度	公益社団法人乙訓青年会議所	会議構成員	107
8	2016年度	公益社団法人乙訓青年会議所	組織図	108
9	2016年度	公益社団法人乙訓青年会議所	委員長方針	119
10	2016年度	公益社団法人乙訓青年会議所	委員会配属	117
11	2016年度	公益社団法人乙訓青年会議所	出向者一覧	118
12	2016年度	公益社団法人乙訓青年会議所	年間公式スケジュール	120



## 公益社団法人日本青年会議所 2016 年度会頭所信

山本樹育

世界とつながったとき、はじめてこの日本という祖国を知った。日本人としての自分を知ることが始まった。自分を知るには、鏡に映る自身の姿を認識することから始めなければならない。鏡は自分自身の心であり、外の「世界」に触れることで磨かれる。「世界」を変えるには鏡に映る自分を変えなければならない。地域から国家、世界へとつながる空間軸、過去からまだ見ぬ未来へとつながる時間軸の交点に存在する自身の姿を思い描くことからすべてが始まる。そして世界は動き出す。そして未来は動き出す。

独立自尊という強い縦糸と、良心という優しい横糸で織りなされる織物はしなやかさを纏い、民族の将来と世界に美しい物語を生み出す。物語を織りなしていくのは形なき心であり、日本人が持つ目に見えざる資産である。

### はじめに

人の「心」が国を創る。

歴史を振り返れば、日本という国は大きな国難のたびに進化を繰り返してきた。

私たち日本人は、多様性を受け止めながらも、基軸となるものは決して変わることなく共有し、受け継いできた「心」を守り磨きながら価値観を進化させてきた。

しかし、戦争という国難を経て、占領期以降いわば「与えられた平和と民主主義」というべき価値観にあぐらをかき、いつのまにか私たちが守るべき「大切なもの」は薄れていってしまった。世界に誇る高度経済成長を遂げつつもバブル経済や「失われた20年」を経て、短絡的で物質的な豊かさをいたずらに追い求めてしまった代償として見失いつつあるもの。それこそが国家を創る基軸となる日本人の「心」。自らを恃む独立自尊の精神と、他者を思う良心とが織りなすものである。

独立自尊とは「己の魂の尊厳を自覚し、志を掲げ、自ら生き抜く力を持つこと」といえる。個の独立がなければ、国の「真の独立」はない。

良心とは「他者のために、自己の心に照らして善悪を判断し、社会的に正しく行動する」真摯な思いである。現在という瞬間にあって、祖先から脈々と受け継いできた過去そして子孫へと綿々と連なっていく未来とのつながりを感じたときに発露される日本人の特性である。独立自尊の精神と良心は、それぞれが重要な価値を持つが、互いに高い次元で共存することで「個」を超え「公」として、はるかに尊い価値をもたらす。

この時代において私たちが基軸とすべき「心」は、先の大戦の廃墟から立ち上がり諸先輩方が創り上げた経済的成長と発展とも矛盾することなく、守るべきもののために強く、

優しく、そして、しなやかでなければならない。守るべきものとは家族、郷土、祖国である。家族や公との強い紐帯から生まれるこの献身、「守る」という大義を尽くすことが日本人の強さの根底にあるのだ。

いつの時代においても世界を変えてきたのは、突き詰めればこうした一人ひとりの力なのである。あらゆる価値の根源は「個」にあるのだ。独立自尊を貫きながらも公とのつながりの中で個性を響かせあい、いろいろな時と場所で幅広く協調していく。そうした協働する仲間を増やすことができれば、私たちも世界を変えることができる。

個は「世界」を知ることで磨き続けられる。それは私たち自身が、神代以来幾千年にわたって絶えることのない皇室を奉じる日本という国を成す一人であることを知る、すなわち「国を創る」一人であることの自覚から始まる。この自覚を基に祖国を知ることは祖国愛へとつながり、祖国愛は、受け継いできた歴史や伝統文化に対する、より正確な知識とそれらを実感する原体験とを求める。こうして形成される確固たる思想や価値観、美意識は、国を超えて「世界」とつながるときにも臆することなく祖国を捉え、自らの個を磨きながら時代を変革する基礎体力となる。

目に見えぬ 神にむかひて はぢざるは 人の心のまことなりけり（明治天皇御製）

私たち日本人は、惻隱の情をもって目に見えないものの重要性を認識し、あらゆる有形無形の物ごとに神々しいまでの価値を感じ、その空間的、時間的な背景やつながりにも目を向けることができる。自らの在り方と、想いや行動が、自身を含むすべてのものや未来に影響を及ぼすことを認識したとき、それらに対して正しい行動を起こそうとする気持ちが深まる。私たちは、目に見えないものへの共感を、個を超えて人びとのより大きく、深い、持続的な新たな関係へと発展させ、公に良心を循環させる「心」ある国、日本を創造するのだ。

## 「平成の建国」

現在の資本主義は、行き過ぎたグローバリズムと投機マネーの暴走という濁流が渦巻いている。

行き過ぎたグローバリズムは能率・効率の大義を振りかざし分業体制を世界的に広げ、国と地域の個性を失わせ、経済のみならず文化や社会をも画一化してしまいかねない。各地域、各国、各民族の美しく花開いた伝統に根ざした芸術や情緒といった多様性は、今、軒並み「絶滅危惧種」に追い詰められる危機にさらされている。本来資本主義においては、資本は繁栄のために投下される、いわば手段である。それが今や、低金利競争で生まれた膨大な投機マネーの出現、株式市場でのプログラムによる超高速売買など人の顔の見えないカネがカネを生むマネーゲームの様相を呈し、世界的に富めるものはますます富み、貧困が固定化する中で、資本主義ひいては民主主義の秩序にさえも懐疑の目が向けられつつあり、一部の過激派は世界各地で公然とテロを起こしている。

そして国内に目を向けると、戦後70年を迎え、少子化、高齢化、人口減少、財政問題、火山帯・活断層の活発化、エネルギー問題など、私たちは時を同じくして降りかかってきた国家的課題に取り組む「平成の建国」ともいうべき新時代への岐路に立っている。

このような時代において、日本はどのような進化を遂げなければならないのか。

それはあたかも大海が清流も濁流も分け隔てなく併せのみ、さらに大海原となり、見渡せば青く澄み、新たな生命を生み出す、世界に対して何物にも代えがたい役割を果たし得る国である。日本人の基軸となる「心」が新しい価値の清流を生み出し、濁流をのみ込むべく進化を遂げなければならないのである。

わが国は決して閉塞しているわけではない。「日本はだめだ」と論拠もなくいたずらに自らを卑下し悲観する声を聞く。それは、現場から遠く離れ実体と向き合おうとしない者たちの虚言にすぎない。自ら行動することもなく、夢想あるいは絶望する。現場で戦う人間から見れば、どちらも無責任な妄想である。現場は楽観も悲観もしない。愚直に、だが確実に、ひたすら前に進んでいる。私たちの未来は、現場に腰を据えて現場と向き合っている人の中のみある。

様々な困難を乗り越えながらも経済的豊かさを達成し、新たなステージを迎えようとしている日本が、次なる時代に向かって、国民一人ひとりが自らの価値基準に基づく真の豊かさを実感できるよう、また、対外的により大きな責任を果たせる国となるよう、根本的に発想を転換したうえで、新しい価値観とシステムを打ち出さなければならない。日本という国が21世紀における新しく鮮やかな「国家、社会のありかた」を率先して示すことが、世界への貢献につながる。

見えるものから目に見えないものに価値を見出すパラダイムシフト。「個」と「公」の調和という新たな価値観。成熟した文化による資本主義の進化。次世代の社会にその思想とシステムを、美しい普遍的な価値を持つ目に見えない資産として遺さなければならない。

## 民間防衛力を高める

国家とは、物理的な領土・領海・領空と、目には見えない国柄からなる。日本の国柄とは、一人ひとりの個性と自由が尊重され、なおかつ国全体として統率がとれている「和」の状態である。「和」の中に公のために自主独立した私が存在し、日本人の「心」を基軸として行動している。

こうした「和」の国柄の巧まざる魅力は外国からも感じられ、戦後の日本のイメージ改善につながったといえる。国家の一員としての一人ひとりの国民が自律と自立の精神をもって公に貢献しているということを発信し、それらを継続的に形にもしていかなければならないのである。

そのためには、まずは国家とその歴史とのつながりを意識せずには始まらない。しかしながら、国民は国家という共同体の中で生きているのに、多くは戦後の一國平和主義にあ

ぐらをかき国際情勢の激動に目を向けず、あえて国家を意識しなくなり、国家観を喪失している。あらゆる問題の原因はここに行きつくのである。

そもそも国家同士は時として倫理も道徳も通用しない利害関係の中で激突する冷徹な現実がある。すなわち、国家が世界という舞台に出たとき、そこは国益の角逐の場となる。国益とは英語でナショナル・インタレスト (national interest) という。個々の国民 (national) につながる関心 (interest) として私たちは国益を常に意識しておく必要がある。日本の安全保障をめぐる環境が激変している今、私たちはわが国の確固たる国家としての意志を示さなければならない。その意志の根源は国民一人ひとりにある。国民の意思が確かでなければ、国民の意思が民意として形をなす政府も政策も確かなものとならない。自衛隊も国民の意思がなければ動けない。

だからこそ、私たちが築くべき国家は、有事のときに備えた自助の力と「防衛力」を備えていなければならない。安全保障につながる国内産業や技術を守るための消費行動や自然エネルギーの自給の意識、それらのすべては、一人ひとりの国民の無知から有知、無関心から関心という変化によってもたらされるものである。私たちは、その意識をさらに具体的な行動へとつなげ、国家に対する自信と誇りへと深め「民間防衛力」を高めていかなければならないのだ。

### **真の主権回復と民度の向上**

わが国の近代民主主義において大きな分岐点となる歴史的な出来ごとが起こった。2015年5月17日の大阪市での住民投票である。いわゆる「大阪都構想」の賛否を問う投票であり、66.83%という3人に2人を上回る数の大阪市民が自らの手でまちの在り方を決めたのだ。結果は僅差で反対が賛成を上回ったが、結果に関わらずこれにより、このまちの民主主義のレベルは上がった。なぜなら多くの市民が自らの生活と直結する問題として、すなわち「自分ごと」として、当事者として決断を下したのだ。これによって、まちの在り方に対する議論が終わったのではなく、むしろこれを端緒として一段階上のレベルでさらなる議論が始まるのだ。

「この人民にしてこの国家あるなり」という福沢諭吉の言葉があるが、国民のレベルが上がれば政治家のレベルも上がり国政のレベルも上がるのである。社会変革への参画は、意思決定への参加から始まる。そこは民意とともに民度も反映されているといってもいい。

そして、国民意識の成熟を促す鍵となるのが憲法である。

憲法とは、権力者への牽制に加え、その国の価値観を明文化したものに他ならないからである。私たちは、憲法解釈の変更、改憲・護憲の議論が進む中、自身の現在の生活や未来に大きく関わるものとして、まずは憲法を深く知ることから始め、国民一人ひとりが責任を持って結論を出していかなければならない。理想の国を創るための手段として憲法を捉え、憲法改正に対して単純に賛成反対を唱えるだけでなく、立場の違いを乗り越えて日

本を、国柄を考えることから始めなければならない。日本の真の主権回復は、国民が憲法について自ら決断を下す日から始まる。

さらに、2015年には公職選挙法改正がなされ、国政選挙などで投票できる年齢が18歳に引き下げられた。これにより、高校生を含む240万人が新たに有権者に加わる事となる。これは、政治に関心を持つと同時に、若いころから知識を得たうえで自分で判断をするという意味でも大きな意義を持つ。

投票率の低さは主権の放棄であり、自由民主主義の破壊である。投票に行かないことは、世界であまた見られる自由を抑圧する国とは違い、何にも制限されず民意を示せる、世界に誇るべき立憲君主国である日本国の根本を揺るがしかねないという意識を広めるべきだ。

2016年は参議院議員選挙が予定されている。これまでにない斬新な手法で、投票率向上につなげるとともに、新たな有権者が政策本位の政治選択ができるようにしたい。

### **国民として必要な知識と意識を持つ**

わが国は、英霊や先達が将来を案じ、身をささげて創り上げてこられたものであることを、今を生きる私たちは絶対に忘れてはならない。自国の歴史をことさらに卑下しおとしめ、先祖を否定して生きていくことは結局自らを否定することであり、わが国の文化遺産を破壊する行為に他ならない。

国家に対する意識の低さの根底にあるものは教育である。義務教育で社会人としての必要な知識を十分習得させることに、もっと意を用いるべきである。

歴史教育においては、近現代史軽視をまず変えなければならない。歴史家E・H・カーはかつて、「歴史とは現在と過去との対話」と述べていたが、現代史について十分理解がなければ過去を学んでも大きな実りを得ることはできない。

そして、日本人のルーツともいべき建国の歴史についても深く学ぶべきである。日本の悠久の歴史は、何物にも代えがたい私たちの貴重な財産である。歴史を学ぶことは現代の私たちに大きな示唆を与えるだけでなく、先人の苦勞を知ることによって、謙虚な気持ちになり、誇りを感じることも通じるのだ。自国の成り立ちと日本国民としてのルーツ、近現代における他国との関係を知っておくことは、国際人として最低限必要とされることである。幼少期から自然に、そして自らの意志で国史を学べるような仕組みを創らなければならない。

北方領土、竹島の問題や、尖閣諸島に対し繰り返される主権侵害は明確な事実とともに国内外に示し続けなくてはならない。北方領土や竹島は理不尽な経緯で不法占拠され、今なおその状態が続いている。国民はその不法の経緯と背景について知っておくべきであるし、わが国の一部が他国に占拠されている異常な事態について、正確な知識と明確な根拠とともに、冷静でありながらも毅然とした態度を示さなければならない。

2014年、私たちはウクライナで、シリアやイラクを中心とした中東で、またアジアで、領土・領海・領空は当たり前前に守られているものでないことを知ることになった。外交は時に限られた利益を取り合う力のぶつかり合いであり、集団的自衛権など、この国のあるべき姿についても世界情勢を踏まえたうえで、憲法を通じて考え、世界に示していかなければならないのである。

自国のことを語れない国民は世界では通用しないし、自国の歴史を語れない人間が他国の歴史や文化を理解することも敬意を表することもできるはずもなく、よって逆に敬意を払われることもない。自らとわが国の置かれている状況を認識し、一国民として何をなすべきかを考え、行動する国民が必要とされている。

### **世界に貢献する日本**

すべての人びとが、自分たちが守らなければならないものを守りながら、空間を超えて顔の見える関係を構築し、互いの価値観の違いを受け止め、良心をもって、共に生きる世界を創ることができれば、この世界はより良く進化を遂げていく。

戦後、奇跡の復興と驚異的な経済発展を遂げた国として、日本はこれまでも海外援助をはじめ様々な国際貢献をしてきた。しかし、まだまだ民間の力を生かして、途上国の貧困や飢餓などの問題に対してできることが多くある。

国連でもグローバルコンパクトというスキームなどが打ち出され、民間の力を取り入れていこうという機運が高まっている。日本人の「心」を基軸とした持続発展的経済活動と社会貢献活動が両立するモデルを創造し広めていくことで、世界に貢献したい。私たちが行うのは、単に日本人の意識を変えるための事業ではなく、すべての事業は世界を変えることにつながる運動であるべきだ。

また、私たちの生活は、世界との関係の中で成り立っている。情報伝達手段や移動手段が進化し、時間的にも空間的にも距離が縮まり、一つの事柄が瞬く間に他者に影響を及ぼすこの時代だからこそ、人びとの確実なつながりの中での関心や共感の範囲を地球規模に拡大させ、やるべきことを共有し、行動へと移していかなければならない。

世界がより良い場所になるためには、それぞれの個人と世界とのつながりにおいて、良心に基づいた支え合いによる課題解決が必要だ。その重要な要因となるのが手段としての経済である。世界が瞬時につながる現代においては、地域や国を越えたすべての関係者が当事者となり、自身のため他者のための社会開発を、成長に持続性を与える経済的要素を加えて行っていかなければならない。

### **民間外交と対外発信力**

国家間に緊張が走った際も、民間のパイプがあれば外交が完全に閉ざされることはない。日本は平和国家として武力によらず、もっぱら政府間の交渉、民間の交流で国益を守



ってきた。安全保障上も民間外交は重要な役割を担っている。今後も外交は官民が連携してこそ、さらに進めていくことができる。

民間外交の最大の担い手となるのは企業である。さらに、日本の未来を考えるのであれば、企業が規模の大小にかかわらず世界を見据えて経済活動を行うことは必須であろう。私たちは、世界中に広がる J C I のネットワークも利用して、世界中の国々と日本企業のつながりを深める役割を果たしていかなければならない。

さらに、日本の対外発信力も高めていかなければならない。領土や領海、歴史問題など日本に対する様々な事実無根の情報が海外に流れている。特にインターネットに流れる情報は瞬く間に拡散し、一度目にされるとそのイメージを修正するには膨大な労力を伴い、すべてを払拭するのはほぼ不可能である。日本にとっては、それが外国語となればなおさらだ。その中で、日本に住む外国人や日本を良く知る外国人が彼らの言語にて日本の正しい情報をきっちりと流し、私たちを強力に弁護し、応援してくれている。

私たちが国際社会に共感で広がるネットワークを築いておくことが、これから日本が世界であらゆる活動をしていくうえで重要な資産となってくるのである。特に、成長著しい国々とのネットワークを築いておくことは将来の国益につながるとともに、安全保障上も大きな意味を持つこととなるであろう。

## **共感を世界に**

共感とは、受け手の心に築かれるものである。

だからこそそれは一朝一夕でできるものではなく、道を究めた作り手の思想、その手から生み出される形あるモノ、それらを育ててきた場所、その背景にある長い年月をかけて編まれてきた物語に共感が生まれる。

日本にはまさに成熟した文化により生み出された、共感を得られる物語がある。それらを世界中に広めることは日本に対する共感が広がることになり、いずれは大きな国益をもたらすことになるだろう。また、それらに触れた日本人も国に対する誇りを取り戻すことにもなるであろう。

外国人が日本のファンになり、日本人が日本の良さを再認識して誇りを取り戻し、さらに共感を生み出す良循環のストーリーを、世界中に広めていきたい。

## **次世代社会の創造**

「平成の建国」を行ううえで、私たちが忘れてはならないことがある。

2011年3月11日、突如わが国を襲った東日本大震災。この大震災によって、被災地の方だけではなく、私たち日本人の人生が、価値観が、大きく変わった。混迷する政治、低迷する経済、無関心がはびこる社会、倫理を忘れた企業経営、閉塞した状況に追い討ちをかけたような戦後最大の危機に直面した私たちは、被災地のために何かできない

か、自分に何ができるだろうか、自問し、多くの人びとが自分の無力さを感じながらも、行動に移した。

その中で、変わらなかったものがある。

忘れかけていた私たち日本人としての「心」である。あの日、自らの危険を顧みず、他者を思い、命を救おうとしたあまたの方々の献身こそ、私たちは忘れてはならない。世界が感嘆した献身を生んだ「心」を動かしたのは、つながりと共感であり、私たちは、空間を超えて痛みを感じ、自分自身のこととして刻みつけたのである。「永く続いた混迷の時代を超え、この日本という国は、新しい国へと再生することができた」と、いつの日か私たちは、次の世代に、そして、あまりにも無念に奪われてしまった数多くの方々の御霊に必ず語らなければならない。

日本列島は千年に一度の地震の活動期に入ったと言われ、いつどこで次の大震災、あるいは火山の噴火が起こるか分からない状況となった。原発事故の収束もいまだ見えず、「常在戦場」と呼ぶにふさわしい状況の中に私たちはいる。そのことを絶えず認識し、災害に対する備えや事後の初動体制を今一度整えておく必要があり、今後も被災地を継続的に支援していかなければならない。

また、日本は、先進国の中でも少子高齢、低成長という経済発展の行き詰まりの「最先端」に位置する。今後アジアの各国が発展を遂げるにつれて、次々に今の日本と同じ課題に直面する。日本は、トップランナーとして問題の解決モデルを見つけ、世界の手本とならなければならない。特に人口減少に対しては、女性が社会進出する中で、男性や地域社会と一体となった仕事と出産・育児の両立などの具体的な施策を実行していかなければならない。エネルギーに関しても、オフグリッドや地域での地産地消などの社会実験を繰り返して解決していく必要がある。

## **新しい資本主義の確立**

私たちは、変革を迫られる前に変革しなければならない。

資本主義に不可欠な要素の一つは経済成長であり、新しい価値を生まない経済は、もはや資本主義とはいえない。しかし、これから問われるべきは、成長の中身がどうあるかであり、何のための成長であるのかを再確認しなければならない。成長の目的は元来国民の幸福であるべきだが、その幸福の質を問われているのである。

これからは質的成長に重点をおいたパラダイムシフトが必要である。資本主義の本質を守りつつ、進むべき未来を変える。目に見えない資本を使って、目に見えない価値を生み出す、社会全体が潤う「共感経済社会」というべき新しい資本主義を確立しなければならない。その新しい資本主義には、従来の資本主義が持っている弊害を抑制する仕組みを組み込むことが求められる。つまり、利益を追求して止まない自利と利他の精神とが調和し

たものに進化しなければならない。そのヒントとなるのが、日本人が古くから持つ「心」の価値観であり、日本が持つ見えざる資本が新しい考え方の方向性の柱となる。

これまでの資本主義における市場政策は、「規制強化」か「自由競争」かの二項対立に陥りがちであった。この二つをアウフヘーベン（止揚）した「企業倫理による自己規制」という第三の軸を中心に、「共感経済社会」にふさわしい市場政策を考えていく。

すでに世界にはCSR（企業の社会的責任）やCSV（共通価値の創造）という思想が広まっているが、これからは、企業やNPO、消費者、行政など、社会を構成するすべての主体者に社会と向き合った経済活動が必要とされてくる。社会起業家という自利と利他の融合が起きてきているように、第三の軸を中心とした資本主義を築き上げていかなければならない。

共感経済社会には新しい価値観が欠かせない。世界を変えていくためにも国民一人ひとりに、この新しい資本主義の考え方を広げていきたい。共感を表す一つの大きな手段として、個人が行うお金の使い方で、この国と世界に影響を与えていく。さらに、「志」に対する共感を一つに集め、一人ひとりの力を結集させることで世界を変えていきたい。

### **経済の「サブシステム」の構築**

都市への人口集中は、農村部での一時的な人口減少だけにとどまらず、地方での持続可能な社会のサイクルを狂わせ、結果的に国全体の人口減少を引き起こしている。国民の幸福を目的としたはずの資本主義が、結果として望まない結末を招いているところに、まさに新しい資本主義を模索する必然性が生まれている。

私たちは、経済の仕組みを変革するにあたって、価値観と意識をも変革しなければならない。

GDPには人間の数が入らない。未来につながる子供の数も分からない。数字上のGDP成長率だけを求めている限り、簿外資産であるマンパワー、人材が細っているという日本最大の問題に対して、目を背け続けていることになる。GDPは国力の一断面しか現れず、将来にわたる国の強さや課題が反映されているとはいえない。

旧来の資本主義が世界全体の市場を駆け巡る巨大なシステムを築いている一方で、私たちは、そうしたシステムに依存しない第二の、すなわち「サブシステム」を考える必要がある。新たな資本主義のかたちとして、質的成長の象徴となってほしい。特に、食糧やエネルギー、モノやサービスの地産地消は、地域内での経済の循環を生み出すだけでなく、わが国の安全保障を担う役割をも果たす。インフラに頼らない小さな自然エネルギーや食糧の自給自足など、地域での経済循環を完結させる可能性を追求することが、「サブシステム」を構築するうえでも重要となってくる。特に地域において生活を豊かにし、有事に備えるという意味でも、国民の意識にもう一つの選択肢として示していきたい。

集団内での自分の相対的な位置づけを確認してから、果たすべき役割を考えるのが日本人の「心」である。こうした価値観を持った日本人は「サブシステム」に自らの存在を置いたとき、そこに公の価値と自らの存在意義を確立していくことであろう。

## 地域の再興

私たちは「平成の建国」に向け新しい資本主義やシステムを目指す。

それはわが国をより良き国へと変えていくためである。その根本にあるのは地域の再興に他ならない。様々な課題は地域から生まれる。課題を解決するためには、地域内、地域と都市、地域と世界、それぞれで循環する経済の流れを太くし、多様性を生かして持続可能性を生み出していかなければならない。

特に、農林水産業は地域の食糧の自給自足と、地域と都市、地域と世界を結ぶ可能性を秘めており、さらには日本全体で食糧自給率を高めることができれば、国民の食の安全・安心を高めることができるだけでなく、食糧の安全保障機能を果たすことにもつながる。

日本創成会議・人口減少問題検討分科会が発表した、消滅可能性都市の報告は衝撃的なものであった。それは単に「限界集落」の問題ではない。地域の集まりが日本国家であるとするれば、「限界集落」それはすなわち日本が「限界国家」に近づいているといえる。多様性と個性を持つ地域が活性化しなければこの国は生き残れない。集落、まち、中核都市など、それぞれが独立した活性化策を遂行することも大切だが、それぞれの関係の中で個性を発揮しつつ、あらゆる手段を講じ、地域としての活性化を図らなければならない。

国が掲げるまち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」とも合致させ、様々な政策の実現に向けた社会実験を行うとともに、地域再興の成功事例を抽出し模範例として全国に共有を図っていきたい。

## 未来志向のまちと「起業家精神」

魅力ある地域とは何だろう。

それぞれの地域が個別の実情に応じて将来を切り拓いていく時代となり、国頼みではなく、地域自体がそのあり方を追求しなければならない。

進化の本質は多様化である。それは生命の理をみれば自明である。日本が向かうべきは多様な価値観が共存する国であり、その地域の文化、思想や精神を反映した様々なものが共存する世界である。地域は、その魅力により都市を巻き込み、さらには世界を巻き込んだ「共感経済社会」を創りあげていかなければならない。

その鍵となるのが、地域の資源である。それは人、企業、行政、NPOなど様々なつながりが生み出したモノやサービスだ。モノやサービスが産み出された背景にはそれぞれの豊かな物語があり、その魅力に触れた人びとに共感をもたらす。それは、地域そのものが持

つ特徴や良さを見直すことにもなり、関わった人びとに地域愛を育み、それが地域に経済的な恩恵をもたらす良循環につながる。

「まち」は記憶の集積である。自分の住んでいるまち、地域というものこそは、自分の生を超えて続いていくものであるという考え方を共有していかなければならない。若者の都市への流出が進み、地域でもかつての大家族から核家族、単身世帯への縮小が続く。しかし、今も昔も人間にはよりどころが必要である。それが故郷ではないだろうか。顔の見える範囲で何かを築いていこうとする人は増えるのではないか。単に「自分が生まれ育った地域」というだけでなく、魅力となる原石が埋まっている故郷を良くしようと行動することがもっと自然なこととなるよう、多様な価値観が共感を広げる環境を広めていかなければならない。

再度問う。魅力ある地域とは。私は、アントレプレナーシップ（冒険心や起業家精神）が発揮できる空間と定義づけたい。現在議論の進む経済特区の制度も活用して、長期的な目でアントレプレナーシップを育てる土壌を創っていかなければならない。「志」が地域の主体者を巻き込み、アントレプレナーシップが生み出されていくケースを積極的に創り出していきたい。「志」の下に集まる共感という見えない資本が地域を再興させていくストーリーを創り出していきたい。そして、青年会議所のネットワークを使ってその輪を広め、この国をさらに元気づけたい。

### **青年会議所の力を高めるソーシャルブランディング**

これまで掲げた理想を実現するためにも、青年会議所は対外発信力を強化し社会における存在価値を高め、社会的認知度を向上させる必要がある。

どれだけ素晴らしい事業を始めたとしても、世の中を変革できなければ運動とはいえない。まずは社会と組織のドメイン（事業領域）に対する社会的合意が必要であろう。青年会議所が何を行う団体なのか、どういった団体なのか。それに対する社会的合意がなければ、社会は変えられない。主観的に定義するドメインは、外部の人びとによって広く支持されたときにはじめて運動が機能するようになる。したがって、ドメインの機能を見る際には、社会的・相互作用的なプロセスが重要だ。

情報量が個人の処理能力を超えて情報が氾濫する現在において、まずは私たちが発信する情報を受け手に「自分ごと」として認知してもらうための仕掛けが青年会議所にも必要である。また、さらに運動へと広げるためには認知から体験のデザインが必要である。それが一人を動かし、続いて誰かを動かし、組織を動かし、社会を動かす可能性を秘めているのだ。その可能性を具体的な国民の営みへと変換していくのが、青年会議所である。

私たちの知識・関係・信頼・評判・文化は、世界に大きな共感を生み出す可能性を秘めている。リアルとバーチャルを融合させ、これまで目に見えなかったものを見えるように

し、意識の琴線に触れて行動につながるコミュニケーション戦略を展開し、青年会議所の社会における存在価値を高めていきたい。

### 政策連携による社会実験

世の中を変えることができるのは、志とそれに基づいて生まれる持続性ある仕組みである。そして、私たちのすべての運動は、わが国の未来につながっている。

2014年から2018年のJCI中長期戦略として、「JCIは持続可能なインパクトを創り出すために、社会の全てのプレイヤーを結束させる、中心的な役割を担う団体となる」と、組織としての方針が示された。

これからの日本は、NPOもNGOも企業も境目なく社会を支えなければならない。そのためには、青年会議所単体にこだわるのではなく、目的を果たすためであれば、すべての主体者と力を合わせて政策的に連携を深めていくべきである。より良い目的達成のために私たちは手段を選ばない。

本来、福祉と経済は決して相反するものではない。これからの時代は両者が融合しながらシステムとして進化させなければならない。人々が相互に協力しつつ社会効用の極大化を図らねばならない。その理想形が、主体者が目に見える範囲から共に助け合い、皆が自分たちの属する公であるまちや、遠くの人、未来を思い支え合い行動する、共助型、公助型社会である。

日本人としての根幹を成す「心」を育成することに加え、日本に存在する様々な課題を解決するためには、果敢に社会実験を繰り返していかなければならない。我々は現場で実際に行動することによって、現場を変える。大げさな政策を立案して提言するよりも、小さな実践と試行錯誤を繰り返すほうが、はるかに現状を変えることができる。

共感者を集めて、人びとを巻き込んだ運動を絶えず創りだしていこう。そこに経済的な循環が伴えば、持続可能性が手法に組み込まれたその運動は新たな価値観を伴い、ロールモデルとして日本中、世界中に広まる可能性を秘めている。また、青年会議所がその一連の仕組みを循環させてみせることが次につながる可能性を高める。青年会議所が行うのは助言だけの単なるコンサルティングではない。自らは独立して生計を立てながら公に貢献しようとするプロボノ集団である。そのプロとしての価値を発揮するときは、今だ。

高い情報収集能力、情報分析能力、日本中・世界中に広がるネットワーク、メッセージ発信能力を駆使しながら、先進的な課題に対していち早く社会実験の繰り返しを行い、解決策にチャレンジしていくことが、青年会議所が社会に対して果たすべき役割である。

国家を「私たち自身の生活の場」として取り戻そうではないか。国民一人ひとりの意識変革と一つひとつの課題に向けた具体的な政策とチャレンジへの共感からくるあらゆる個人や団体の協働、すなわち政策に対する連携による具体的行動がこの国のかたちを創り上げるのだ。

## 私たちの心の結晶を遺そう

祖国の国際社会への復帰と経済復興を大義として掲げ、現在の我々と同年代だった当時の青年経済人によって日本の青年会議所運動は興された。そこから今に至るまで積み重ねた実績こそが、「青年」の大義が見事に果たされたことを雄弁に物語っている。

「青年」— それはあらゆる価値の根源である。

我々は青年経済人として先人たちと同じく祖国を想い、大義を掲げ「平成の建国」における価値の根源とならなければならない。先人たちが責任を果たしてきたように、私たちも責任世代として未来にこの国をより良い形で遺していかなければならない。

私たちは、何も持たずにこの世に生まれ、何も持たずにこの世を去る。しかし、人びとの心や国に生きた証を刻むことはできる。人生の中で最も輝きを放つ青年期。我々は、青年期にこの時代を生きた証を心の結晶として遺し、今しかできない、今だからこそできることを全うしようではないか。守るべきものは何なのかを腹に据え、そのためにこの国を護り、創っていこうではないか。

失敗は受け入れることができる

しかし挑戦しないことは受け入れることができない

未来は今を生きる私たちにかかっている 永遠に続く今の先に未来があるのだから  
変化は必ずしも進化を伴わないかもしれない しかし進化は変化なしにはありえない

自らが変化の原動力となり 進化の起点となり 美しい物語を織りなそう  
強く 優しく しなやかな 「心」ある国 日本を実現するために

# 公益社団法人日本青年会議所

## 2016年度 基本資料

### 基本計画

(基本理念・基本方針)

#### 基本理念

独立自尊の精神と良心が織りなす

「心」ある国 日本の創造

#### 基本方針

1. 知識と意識を伴った「民間防衛力」の確立
2. 世界への貢献と民間外交を両輪とした国益の増進
3. 自利と利他が調和した次世代社会の構築
4. 多様な個性が共感を広げる魅力ある地域への再興
5. 挑戦と変化が生み出す進化した組織運営



# 公益社団法人日本青年会議所

## 2016年度 基本資料

### 事業計画

[1] 日本青年会議所が主催し、各地会員会議所に重点的に依頼する運動・事業

1. 選挙における公開討論会の実施
2. UN SDGs達成に向けた運動の推進
3. 地域再興政策の募集

[2] 日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIや各国青年会議所に対して、参加や参画など協力を依頼して行う事業

1. 京都会議 【 1月】
2. サマーコンファレンス 【 7月】
3. 全国大会広島大会 【10月】
4. 国際アカデミー
5. 人間力大賞
6. 褒賞
7. 各種視察団・使節団の派遣
8. 国際協力

[3] JCIが主催し、日本青年会議所が連携して行う運動・事業

1. JCI ASPAC(台湾／高雄) 【6月】
2. JCI グローバルパートナーシップサミット 【7月】
3. JCI 世界会議(カナダ／ケベック) 【11月】
4. JCI アワードへの申請 【6月・11月】
5. UN SDGsの推進 【通年】

[4] 日本青年会議所が行う運動・事業

## 近畿地区協議会基本方針

# アジアのパイオニア 近畿の実現

近畿地区担当常任理事 張本 昌義

近畿は活力漲る地域が偏在していますが、地域の独自性を生かした歴史的文化を発信するアイデア溢れる若者と阪神淡路大震災からの復興経験をもとに、日本のみならずアジアにロールモデルを示すことができます。志高き我々は、主権者意識と三方よしの価値観を備えた市民とともに、独創的な発想で持続的に地域経済が発展し、自立と共助の調和した防災力を保持した先進国の課題解決法をアジアに示す、魅力溢れる近畿の実現が必要です。

まずは、地域から日本の未来を切り拓くために、本会の事業運動を推進します。そして、自然災害に強い地域を確立するために、自助、共助、公助体制の強化から防災ネットワークを拡充し、愛郷心を育むとともに相互扶助という良心を循環させます。さらに、日本のみならずアジアのパイオニアとして平和と繁栄の礎を築くために、成長著しい国において社会貢献と経済循環が両立する持続的発展可能なシステムを実践し、成熟した文化による進化した資本主義を伝播させます。また、創意に富む持続可能な社会を構築するために、地域における存在意義を若者が自覚し、公共の担い手としての確かな価値を高めることで、地域資源を有機的に連携させるアイデア溢れる人材を育成します。そして、自らが地域を創るという当事者意識を確立するために、地域に愛着を持ち社会貢献活動をする人材への市民の共感を生み出し、自分ごととして地域の問題を解決する市民意識を確立します。さらに、魅力溢れる近畿を実現するために、多様な個性が有機的に結びつく理想の近畿像に対する市民の共感を集め、成すべき事を自覚するとともに実行する意欲を喚起します。

自身の能力を公に発揮する我々が、自助、共助の精神を備えた市民とともに、互いに支え高め合う共生社会と持続的発展可能な経済社会が両立し、地域の魅力が人を育み、育まれた人が地域を磨く、アジアのパイオニアたる近畿から「心」ある国、日本を創造します。

### <事業計画>

1. 本会の事業・運動推進
2. 自然災害に強い地域の確立
3. アジアの平和と繁栄への貢献
4. 創意に富む持続可能な社会の構築
5. 市民の愛郷心とまちづくり意識の喚起
6. 「志」が共感を生む魅力溢れる近畿の実現
7. 【地区連】「未来へつなぐプロジェクト～音楽のちから～」の推進
8. 【地区連】ＪＣカップ Ｕ－１１少年少女サッカー全国大会の予選大会の実施

## 京都ブロック協議会 事業計画

# 多様な文化が紡ぐ心あるまち、京都の実現

京都ブロック協議会会長 出口 幹恭

千年の都を支えた歴史ある国際都市京都は、住環境の変化から地域経済の縮小や地縁的なつながりの希薄化が招く自治意識の低下が進んでいますが、豊かな文化と地域資源の蓄積を活かしたまちづくりが期待できます。地域のオピニオンリーダーである我々は、他者を慮る心を備えた府民とともに、個と公のバランスを保った経済成長と相互扶助の精神が確立された地域を再興し、多様な文化が紡ぐ心あるまち、京都を実現する必要があります。

まずは、地域から日本の未来を切り拓くために、本会の事業運動を推進します。そして、地域の課題解決に向き合う我々の運動を引き継いでいくために、青年会議所の魅力を発信する手法を習得し、協働する仲間を増やす好機を得ることで、LOMの持続的発展を支援します。さらに、防災力を高めた共助体制を構築するために、多くの人びとが実働できる防災ネットワークの拡充を図ることで、広域的で迅速な相互支援体制を整えます。また、地域資源を活用したまちの未来を創造するために、地域のロールモデルを学ぶことで、自らの地域を見直す端緒とし、地域資源を備え経済性を伴った地域を創ります。そして、意識変革運動が地域へ変化を与えるために、新たな価値観を生み出す資質向上を図ることで、今を見据えたリーダーとなる人材を育成します。さらに、アジアの安定平和に寄与するために、独自性を保持しながら豊かに発展してきた日本文化を発信し、相互理解につながる草の根レベルの民間外交を構築します。また、魅力溢れる京都を実現するために、府民とともに多様な個性を共存へ紡ぐことで、地域内経済を取り込んだ良循環を創出します。

まちの未来を見据えて行動した我々は、国内外からの価値観を受容するしなやかさを持った府民とともに、地域社会の強い紐帯と資源の総合力を備えた京都へと発展を遂げ、自治意識と愛郷心を纏った地域を実現した定常型社会から「心」ある国、日本を創造します。

### <事業計画>

1. 本会の事業・運動の推進
2. 会員拡大の支援
3. 防災に対する意識の確立
4. 多様な価値観を生み出す地域資源の確立
5. 「志」を創出する意識変革事業の確立
6. 国際交流を通じた民間外交の構築
7. 地域の再興につながる本質の追求
8. 【ブロ連】国民の憲法に対する意識を確立する事業の実施
9. 【ブロ連】共感経済社会の実現に向けた運動の推進
10. 【ブロ連】「未来へつなぐプロジェクト～音楽のちから～」の推進

## 笑 超 蒼 天

### — 誇りを繋げ！その力が乙訓の未来を創る —



理事長 松宮 吾朗

#### はじめに

戦後、辺り一面の焼け野原から再び歩み始めた我が国日本は、終戦を境に民主主義を基調とする平和主義の国へ生まれ変わりました。経済的に自立した独立国へ進む道は、決して容易なものでは無く、戦争とは別の生きる事への新たな闘いが始まりました。そして、先人達は様々な困難を乗り越え、日本を経済的豊かさが感じ取れる国家に導いてこられました。

終戦直後の混乱期中、「新しい日本の再建は、我々青年の仕事である」という熱い情熱と高い志を持った青年達によって、日本青年会議所は記念すべき一歩を踏み出しました。終戦から70年の月日を経て現在、65年の歴史を持つ日本の青年会議所運動は、目覚ましい発展を遂げ、697LOMIに3万3千余名の会員が集う、戦後最大の青年運動団体となりました。その様な時代背景のもと、1979年に「明るい豊かな社会の実現」に向け、この乙訓をより良くしようという熱い情熱と高い志を持った若者が集い、乙訓青年会議所が誕生しました。そして、1999年には乙訓青年会議所が目指す一つの到達点として、2020年ビジョン「地球市民意識あふれる乙訓」が掲げられました。その中で、刻々と変化する社会情勢に伴い、我々が進むべき方向性を常に検証しながら行動指針を策定し、35周年を期に新たな行動指針として、ファイナルアクションプラン「地域と共に夢と誇りを育む乙訓創り」を提言し、自立「私たちが夢と誇りを持つ」、共生「私たちが夢を与えられる人になろう」、創造「私たちが誇りを持てるまちにしよう」の3本柱で活動をより明確化しました。これまでの長い歴史の中、それぞれの時代で手法や表現が異なっても、今もなお熱い情熱と高い志が脈々と受け継がれております。今後も市民、行政、地域諸団体と共に我々青年が、この乙訓に対して愛着を持ち、より良くする為に率先して活動していかなければなりません。我々の前向きで真剣な姿が、地域の方々に広く伝播する事で、青年会議所の目指す「明るい豊かな社会の実現」に繋がると確信します。「この乙訓で生まれ育ち本当に良かった」と誰もが心から想える様に、これからも乙訓青年会議所メンバー一人ひとりが、先輩諸兄から受け継いだ情熱と志を胸に持ち続け「誇れるJAYCEE」「誇れる組織」「誇れる乙訓」を目指し、地域の負託と信頼に応え続けていかなければなりません。

## しょうこそうてん 笑超蒼天

幼い頃、都心での暮らしに憧れを抱いていた私は、社会に出たのを機に地元を離れて暮らす様になりました。しかし、離れて暮らせば暮らす程、また、地元に戻って来る度にいつしか生まれ育ったこの乙訓まぢに対する愛着を抱く様になりました。帰郷後、父親から受け継いだ会社で働く中で「何かこのまぢに関われないか」、その様な気持ちを持ち始めた頃、地域の若者が乙訓まぢをより良くする為に活動している乙訓青年会議所と出会い、素晴らしい仲間と共に、自身を成長へと導くチャンスを受けました。その活動を通じて、いつしか乙訓まぢに対する愛着やここに住んでいる喜びが自身の「誇り」であると考え様になりました。

私は、「武士は食わねど高楊枝」という言葉が好きで心に留めております。武士は、貧しくて食事が出来なくても、あたかも食べたかの様に「食った食った」と楊枝を使って見せるという意味です。それは、武士の「誇り」とも捉えられます。乙訓青年会議所も武士の如く、先輩諸兄から脈々と受け継がれた「自分がやるしかない」という、あふれる情熱と高い志を胸に、一人ひとりが率先して活動する誇れる組織であると私は確信します。しかしながら、どの様な人でも人生を送る上で常に楽しい事ばかりでは無く、必ず様々な形で苦難という壁に阻まれます。どんな時も夢に向かい、前向きに苦難を乗り越えていく気概が必要であり、我々には、先輩諸兄から受け継いだ「誇り」を次代へ繋ぐ使命があるのです。

2016年度スローガンに「笑超蒼天」を掲げ、～誇りを繋げ！その力が乙訓まぢの未来を創る～をテーマに活動します。メンバーに様々な苦難を前向きに乗り越えていける姿勢を持って頂く意味で「笑超(しょうこ)」、そして笑顔で乗り越えた暁には、自身が成長した素晴らしい景色が見える様を「蒼天(そうてん)」で表しました。乙訓青年会議所メンバーは、日々の自己修練を無駄にせず、今後の活動に対して「笑顔で苦難を乗り越えられるJAYCEE」「笑顔を周囲に伝播出来るJAYCEE」となり、何事にも前向きにチャレンジして頂きたいと思えます。我々が常に前向きに日々の活動に取り組む事で、自身のより良い成長に繋がると共に、笑顔が人からひとへ伝播し乙訓全体がより一層明るくなると考えます。まず私が先頭に立ち、組織のリーダーとして苦難に対して前向きにチャレンジする、笑超蒼天の気概を持って乙訓青年会議所の誇りを継承します。

## 地域に貢献出来る乙訓まぢのリーダーを育成し、魅力ある組織を上げよう

現在の日本は、少子高齢化に伴う人口減少、地域経済の縮小、地域コミュニティの希薄化という様々な課題に直面しています。その課題の解決には、地域が市民主導型社会へと自立して行く事が必要不可欠であり、自らの手で企画し実践出来る人財、すなわち「リーダー」を地域に育み、より一層地域を活性化させる必要があります。まず私達自身が、様々な立場で地域に関わる人々の協力を得ながら、一つの方向性を持ち地域に貢献出来るリーダーにならなければなりません。

地域に貢献出来るリーダーとは、自己の利益だけを追求するのではなく、地域社会の一員として住まう方々と共に、地域の発展に寄与する中でリーダーシップを発揮出来る人財です。また、リーダーシップとは「自らを当事者として動かせる」意識を持ち、「何の為に」「何を目指して」という方向性を周りに示し、「計画」「実行」「検証」をする中で周囲の人に影響を与える力です。明るい豊かな乙訓まぢを実現するには、我々が地域に貢献出来るリーダーを目指し、メンバー一人ひとりの資質向上が必修であると共に、地域の方々も一緒に学んで頂ける機会が必要です。その為にも、地域に開かれた学びの場となる例会を開催し、多様な角度からリーダーシップについて学んで頂く事で、地域に貢献出来るリーダー育成の機会を設けます。また、座学に留まらずメンバー向けの資質向

上事業も開催し、普段の例会とは違う切り口でメンバーの成長を促します。今後も、乙訓の為に活動するJAYCEEとして、更なる躍進と地域から必要とされるリーダーを目指し「自分がやるしかない」という、あふれる情熱を持って周囲を巻き込める人財へと成長し、笑顔あふれる乙訓を創造しましょう。

40歳で卒業を迎える青年会議所に於いて、昨年度、乙訓青年会議所では11名の卒業生を送り出しました。本来、我々が目指すべき姿は、会員の拡大活動そのものが無くとも人財が集う組織です。しかし、様々な時代背景と卒業という枠組みがある中、会員拡大に尽力するものの、現状のメンバー数を保つまでに留まっています。「明るい豊かな乙訓の実現」を目指し、今後も地域に根ざした活動を継続していくには、一人より二人、二人より三人と、一人ひとりが持つ力を集結させ、乙訓青年会所の運営維持と発展に繋げる事で、我々の運動を力強く発信させなければなりません。そして、仲間を増やすには、一人でも多くの方々に我々の何事にも前向きに取り組む姿勢を感じて頂く事で、青年会議所活動の魅力を伝播していかなければなりません。

会員拡大は地域貢献に繋がる究極の青年会議所活動である事を認識し、他の青年会議所の有効な拡大手法も参考にしながら、これまでの手法に工夫を凝らしメンバーの拡大に繋がります。そして、会員拡大活動は決して難しいものではなく、相手にしっかりと青年会議所の魅力が伝われば入会に繋がりと、仲間を増やす楽しい活動であるという認識を持って頂く為に、「乙訓青年会議所の魅力の共有」と「青年会議所の魅力を伝える力」を養う機会を設けます。更に、担当委員会だけでは無く、メンバー全員で乙訓青年会議所の魅力を共有し伝える事が出来れば、情熱の燈火が次々と伝播し、私達の乙訓を明るく照らすと確信します。

新たなメンバーが入会に至るまでのサポートや入会後のサポートは勿論の事、同じ志を持つ仲間として意識を高める機会を設けると共に、一年間の拡大活動に於ける報告、検証を行い次年度にしっかりと引き継ぐ機会を設けます。「魅力的な組織は魅力的な人財によって創られる」「魅力的な人財は魅力的な組織に集う」という考えのもと、人財の育成と拡大は互いに連携し合い、その相乗効果で乙訓青年会議所の魅力を増幅させ、誇れる組織の基盤強化に繋がらしましょう。

### **未来を担う子ども達に夢を与え、愛郷心と誇りを育む乙訓創り**

近年の急速な社会環境の変化が、子ども達の徳育に大きく影響し、「他者への思いやり」「生命尊重・人権尊重の心」「人間関係を形成する力」の低下が指摘されています。また、社会を震撼させる青少年が関与する様々な事件が連日報道されています。しかし今、子ども達の行動に対して指摘されている問題点の多くは、むしろ大人達に責任があるのではないのでしょうか。また、幅広い可能性を伝えるべき大人が、如何様にも感化される子ども達の手本となり得ていないのではないのでしょうか。我々大人がその環境を整えて行く必要があり、子ども達に対し「生き方は言葉で教えるのではなく背中で見せるもの」という意識を持たなければなりません。そして、子ども達が豊かな「人間性」を育むには、まず大人自らがモラルの向上に取り組むと共に、子どもへの徳育を充実させる必要があります。その上で、子ども同士で様々な体験を通じて、お互いを大切にする事を学ぶ機会を創出しなければなりません。

地域を形成するのは人であり、未来の地域を輝かせてくれるのは、今を生きる子ども達です。我々大人が、今一度未来を担う子ども達と真剣に向き合うと共に、「憧れられる大人」を目指し、日本の良き道徳心を学ぶ機会を創出します。そして、地域の小学生が集う文化少年団事業は、子ども同士で様々な体験や大人達の背中を見て、「人間性」を育める機会であると共に、子ども達だけではなく、背中を見せる立場の我々も、自分自身を律する必

要がある事に気づかされる大変素晴らしい事業です。今後も、気づきや学びのある素晴らしい事業を構築し、行政、地域諸団体そして乙訓の方々と共に、未来を担う子ども達の健やかな成長を促し、青少年の健全な育成に努めましょう。

近年、地域を取り巻く環境は、地域の賑わいの場であった商店街の衰退により大きく変化しています。また、物質的に恵まれ個人の自由を選択出来る、この時代に生きる私達世代は、この豊かさが仇となり利己主義な考え方が促進され、周りに対しての配慮、まちに対しての夢や誇りを見失った部分も多く存在しているのではないのでしょうか。

この現状を踏まえ我々は、地域資源である市民、行政、地域諸団体が三位一体となり主体的に魅力ある地域を目指し、地域力を更に向上させる必要があります。地域力を向上させるには、一人ひとりが地域の問題に対しての「意識」と、行動を起こそうという「意欲」「動機付け」「主体者意識」を持って行動しなければなりません。その行動は、地域への関心から乙訓に対する愛着へと変化し、自ら行動しようという「意欲」を更に喚起する事に繋がります。それ故に、「夢と誇りを持てる乙訓創り」を実現する為には、乙訓に関心を持ちより良くしようとする「意識」と「意欲」を持ち、乙訓の魅力に触れた人々が愛郷心と誇りを育む事に繋げなければなりません。

これまで乙訓青年会議所は、乙訓の方々と共に行う事業やボランティア活動、またテーマ別の講師講演の開催を通して、人とひととの繋がりを育む機会や地域の事を考える機会を創って参りました。今日まで構築してきた機会を更に昇華させ、相互連絡、意見交換、共同事業を展開し、複合したネットワークの構築を目指すと共に、市民主導型社会へと繋げていく事業を本年度も開催します。乙訓を継続的に発展させ、住まう方々に自分の乙訓に誇りを持って頂く為にも、今後も愛郷心育める運動を継続的に展開していきましょう。That service to humanity is the best work of life(人への奉仕が人生最善の仕事である)。我々が唱和しているJCIクリードにこの一文がある様に、常に問題意識と使命感を持ち、人や乙訓に対して、主体的に行動の出来る組織を目指しましょう。

### 安心して住める乙訓のネットワークを構築しよう

近年、全国各地で突発的な自然災害が発生し、多くの人命や財産等が失われています。自然災害による被害は、広い範囲に甚大な被害を及ぼす事に加え、復興には長い年月と多大な支援や援助が必要不可欠です。しかし、災害時に於いて、復興に向けた各地域のボランティア団体や市民が集まるものの、行政、地域諸団体との情報を共有するネットワークや役割分担が確立していない事で、迅速な対応が出来ず復興が円滑に図れない現状があります。それ故に、日頃から災害が起こり得る事に留意し、地域ネットワークを活かした迅速な伝達や適切な対応の出来る環境を創出し、災害支援対策に向けた取り組みをしなければいけません。その中で全国各地にJC災害ネットワークを有し、日本、近畿、京都と災害レベルに応じて組織的な支援体制に努める我々青年会議所は、このネットワークを活かしより円滑に、より迅速に情報共有出来る仕組みを拡充させる必要があります。そして、企業、行政、地域諸団体の役割を明確化する事で提携、連携強化に努めなければなりません。

我々は、慎重に調査、検証した上で二市一町の地域諸団体や行政の方々と共に、JC災害ネットワークと地域ネットワークを活かし、災害時の支援対策本部の設置、即座に災害支援対応の出来る情報共有、連絡体制の構築に努めます。そして、乙訓青年会議所、市民、行政、地域諸団体が乙訓のネットワーク構築に向けて連携し、地域に住まう方々が安心して住める乙訓にしていきましょう。

## 真の絆を構築し、誇れる組織を発信しよう

メンバーが青年会議所活動をする中で、「社会への奉仕、個人の修練、仲間との友情」の三信条の一つである友情を育むには、メンバー同士が互いに「対話」出来る環境が必要不可欠です。そして、日々の活動を通して相互交流を図り、友情を育む中で組織力の強化に努めなければなりません。その環境を整えるには、メンバー自身が、会議や事業等の主旨を理解した上で参画し、各事業終了後に行われる懇親会の実施意義をしっかりと認識した上で、メンバー同士の真の絆を確立させなければなりません。その中で、メンバー同士が刺激し合い、切磋琢磨する事で信頼関係が構築され、「対話」の出来る環境が創出されると考えます。

力強く元気な乙訓青年会議所を今後も継承していく為に、同じ時間を共有する中でメンバーの様々な考え方を知り、互いを分かり合う事で掛け替えの無い友情を育み、乙訓青年会議所の誇りを繋ぎなければなりません。そして、更に広く信頼関係を構築する為に、乙訓地域だけでなく、地域を越えた友情が育める機会に参加して行く必要があります。外に出る事により乙訓青年会議所の力強さを感じると共に、多くの方々との人間関係を築き、絆の輪を広げましょう。また、LOMを越えた事業を体感する事は、新たな経験を取り入れ、今後の事業を企画・運営する上で大きな財産となります。その為に、各事業への参加意義をしっかりと伝え、積極的に事業参加を促し、メンバーと過ごす時間の中で、信頼を深め真の絆を構築しましょう。

我々は活動する上で、家族と社員の下支えと協力があるからこそ日頃の青年会議所活動が出来ている事を忘れてはいけません。我々が、家族と社員に日頃の感謝の気持ちを伝えると共に、青年会議所運動の良き理解者となって頂く為の機会を設けます。先輩諸兄から受け継いだこの組織の礎に感謝し、元気で力強い乙訓青年会議所を継承し、乙訓の方々にとって今後も必要な団体となるべく、誇りある組織を創り上げましょう。

我々の運動が、乙訓の負託と信頼を得なければ、自己満足や自己完結な組織に過ぎません。だからこそ、我々は、市民、行政、地域諸団体と乙訓の課題を共有すると共に、様々な手法を用いて、乙訓青年会議所の活動内容や運動を積極的に情報発信し、地域に於ける存在価値を高める必要があります。だからこそ、多くのメンバーでJCIをはじめ、日本青年会議所、近畿地区協議会、京都ブロック協議会の活動に参画し、乙訓青年会議所を客観的に捉えた中で、組織としての方向性や考え方をメンバー全員で共有し「誇れる乙訓の実現」に向け、地域に発信しなければなりません。また、委員会は青年会議所の運動発信を担う重要な立場として出向者がどのような活動をしているかをしっかりと把握し、出向に取り組む姿勢や事業主旨をメンバーに伝達し、理解した上で様々な事業に参画を促す必要があります。そして、渉外交流と運動発信は互いに連携する事で、メンバーの事業参加に繋がる事を認識すると共に、出向先や事業参加で得た多くの学びを次代に伝え、実践する事が乙訓青年会議所の更なる活性化に必ず繋がると考えます。

我々の運動への賛同者を増やす為に、ホームページ、SNS、新聞等の媒体を用いて乙訓青年会議所の運動を市民、行政、地域諸団体に対して迅速に、より積極的に発信して参ります。そして、異業種の方が集う青年会議所活動に於いて、新たな人脈のきっかけ創りは、ビジネスや対外発信力強化に繋がる大変重要な機会と捉え、様々な職種の方が交流出来る場を設けます。

我々の運動や出向先で活躍するメンバーの活動等を地域の方々に情報開示し、乙訓青年会議所の発信に繋げ、まちの負託と信頼を得られる様に「自分が変われば周りが変わる、周りが変われば乙訓が変わる」という想いで我々の運動を大いに発信しましょう。



## 「何の為に」にこだわり、信頼される公益団体を目指そう

乙訓青年会議所は、公益社団法人格を取得し5年目を迎えます。入会歴の浅いメンバーが大半を占めると共に、平均在籍年数が短くなってきている事から、組織として守らなければならない「JCの約束事」「JCの決まり事」を理解しているメンバーが、減少している様に思います。組織を、未来永劫守り続けていく為の「約束事」である定款の把握、規約の把握、会議や日々の活動に於ける掟としての「決まり事」を周知徹底する事が必要であると共に、今後も運営方法や予算編成、予算執行、コンプライアンスに関する審査を適正に行い、公益社団法人として責任と自覚を持った運営をしなければなりません。そして、青年会議所は事業に至る背景、目的、手法を盛り込んで議案書が作成され、事業計画書をもとに、事業を実施し次代に引き継ぐ為に検証が行われます。我々は、より良い乙訓を目指し様々な事業を行う中で、議案書を通す為の事業計画では無く「明るい豊かな乙訓の実現」により近づける為に、「何の為に」という事を常に意識して活動していかなければなりません。

日々の青年会議所活動に於いて目的が付き物である様に、人生に於いても「何の為に、どの様に行動すべきか」を考えて行動する事で、自身の方向性を見失わず歩む事が出来ます。日頃から目的にこだわり、「明るい豊かな乙訓の実現」に向けてより良い会議運営、各委員会からの議案配信、議案精査を徹底して濃密で実り多い会議を実現しましょう。そして、会議に於ける「約束事」「決まり事」を再度認識して頂く機会を設け、これまでの乙訓青年会議所の会議体制を引き継いでいくと共に、メンバーの積極的な会議へのオブザーブを推奨し、公益団体として信頼性のある会議運営を心掛けていきましょう。

## あふれる情熱と高い志を次代に繋ぎ、乙訓の未来を創ろう

我々が、日々活動する乙訓青年会議所の組織に於いて、各役職の職務に対する役割を今一度確認して欲しい。委員長はやはり尊敬される委員会のリーダーであり、副委員長は委員長を支える強力なサポーターでなければならない。そして、幹事は委員会メンバーが心から信頼出来る縁の下の力持ちであって欲しい。大人の学び舎である青年会議所で、役職が人を育てるという様に、誇りを持ってその時にしか学び得ない事を経験して頂きたい。また、青年会議所活動が40歳までと同じで、単年度という限りがあるから思う存分活動出来るのです。単年度だから毎年様々な可能性を見出せるのです。そして単年度だからやり直せるのです。

「時は命なり」

どうか、限られた命を大切に使い、思いっきりチャンスを楽しんで欲しい。

「Positive Change」

より良い変化が乙訓青年会議所を牽引する原動力になるのです。

笑顔で超えていこう！

乙訓の為に、家族の為に、自分の為に。そして未来の為に！

2016年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
スローガン・テーマ

【スローガン】

**笑 超 蒼 天**

【テーマ】

**一誇りを繋げ！その力が乙訓の未来を創る一**

2016年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
基本理念・基本方針

【基本理念】

ファイナルアクションプランに基づいた活動

主体性を持った誇り高き人財が集う組織の構築

市民の笑顔と愛郷心あふれる乙訓の創造

【基本方針】

地域に貢献出来る乙訓のリーダーを育成し、魅力ある組織を拓けよう

未来を担う子ども達に夢を与え、愛郷心と誇りを育む乙訓創り

安心して住める乙訓のネットワークを構築しよう

真の絆を構築し、誇れる組織を発信しよう

「何の為に」にこだわり、信頼される公益団体を目指そう

あふれる情熱と高い志を次代に繋ぎ、乙訓の未来を創ろう

2016年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
事業計画

- (1) 青少年育成、教育文化スポーツ交流事業
  - 文化少年団事業（年9回の開催）
  - 乙訓ふるさとふれあい駅伝の参画協力
  - 青少年育成研修事業の開催
  
- (2) まちづくり事業
  - まちづくり事業の開催
  - 二市一町地域力向上を見据えた会議の開催
  - 二市一町の地域ネットワークの確立
  
- (3) 地域経済及び地域振興の研究、研修事業
  - 経営研修事業の開催
  - 人づくり研修事業の開催
  
- (4) 会員交流及び組織維持目的事業
  - 会員交流会の開催
  - 会員拡大を目的とした説明会等の開催
  - 新人会員の勉強会の開催
  
- (5) J C I ・ 公益社団法人日本青年会議所 ・ 近畿地区協議会 ・ 京都ブロック協議会への参加・協力
  - J C I : A S P A C、世界会議、各種事業
  - 公益社団法人日本青年会議所：京都会議、サマーコンファレンス、全国大会、各種事業
  - 近畿地区協議会：近畿地区大会、各種事業
  - 京都ブロック協議会：京都ブロック大会、各種事業

2016年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
委員会・会議体活動計画

**1. 全委員会**

- ① 会員拡大活動と魅力伝播委員会への連携と協力
- ② まちづくり事業、青少年育成事業への参加・協力
- ③ 災害対策支援会議との連携と協力

**2. 地域に貢献出来る乙訓<sup>ま</sup>のリーダーを育成し、魅力ある組織を上げよう  
(人財育成室)**

(資質向上委員会)

- ① 2月例会の開催(オープン例会)
- ② 6月例会の開催(オープン例会)
- ③ 11月例会の開催(オープン例会)
- ④ 研修事業の実施

(魅力伝播委員会)

- ① 会員拡大活動の実施
- ② オープン委員会の開催
- ③ 入会説明会の開催
- ④ 4月メモリアル100%出席例会の開催
- ⑤ FTセミナーの開催
- ⑥ 会員拡大の報告及び検証
- ⑦ 各委員会への会員拡大活動の支援
- ⑧ 会員拡大活動に関する情報管理と更新
- ⑨ 新入会員の入会に至るまでのサポート
- ⑩ 新入会員の入会後のサポート
- ⑪ 新入会員入会式の設営・運営

**3. 未来を担う子ども達に夢を与え、愛郷心と誇りを育む乙訓<sup>ま</sup>創り  
(まちづくり室)**

(青少年育成委員会)

- ① 3月例会の開催(オープン例会)
- ② ケイジャーズカップ実行委員会への連携
- ③ 乙訓文化少年団の運営
- ④ 乙訓地方小学生駅伝大会委員会への連携

⑤ 公益社団法人日本青年会議所・協働運動の連携と推進

(まちづくり委員会)

- ① 5月例会の開催(オープン例会)
- ② 9月例会の開催(オープン例会)  
広域な連携を推進し地域力を向上するまちづくり会議・事業の開催
- ③ 二市一町の行政・各諸団体との連携
- ④ 公益社団法人日本青年会議所・協働運動の連携と推進
- ⑤ 各種選挙に於ける公開討論会の協力・実施

**4.真の絆を構築し、誇れる組織を発信しよう**

(JC運動推進室)

(渉外交流委員会)

- ① 1月例会・新春交歓会の開催
- ② 3月3LOM合同交流会の開催
- ③ 8月例会・納涼会の開催
- ④ 12月卒業式・忘年会の開催
- ⑤ 家族、社員参加型交流会の開催
- ⑥ 会員交流会の開催
- ⑦ 会員及び特別会員との親睦に関する事項
- ⑧ 公益社団法人日本青年会議所全国大会のLOMナイトの開催
- ⑨ 各事業案内の取りまとめに関する事項

(JC運動発信委員会)

- ① 京都ブロック協議会会長公式訪問の開催
- ② 異業種交流会の開催
- ③ 10月例会の開催
- ④ 行政地域諸団体の情報の収集及び管理
- ⑤ 青年会議所活動及び地域活動の外部発信並びに新聞の制作・発行及び管理(年12回)
- ⑥ 公式ホームページの制作及び管理
- ⑦ LOM外情報に関する内部発信
- ⑧ LOM内外各種事業の記録、データ管理
- ⑨ 理事長対談の取材に関する事項
- ⑩ 近畿地区協議会・京都ブロック協議会に関するブース出展時の協力、LOMナイトの開催(京都会議、サマーコンファレンス)
- ⑪ 出向者支援に関する事項

**5.「何の為に」にこだわり、信頼される公益団体を目指そう**

(総務室)

(総務財政委員会)

- ① 7月例会の開催
- ② 12月例会の開催
- ③ 役員セミナー・事務事項説明会の開催
- ④ 総務及び庶務に関する事項
- ⑤ 事務局の管理運営に関する事項
- ⑥ 会員名簿及び基本資料の作成
- ⑦ LOM運営マニュアルの作成
- ⑧ 会員の褒賞・表彰及びブロック等への事業褒賞申請に関する事項
- ⑨ 総会及び理事会・正副理事長会議の設営・運営
- ⑩ 理事会オブザーブ管理
- ⑪ 総務審査会議の設営・運営
- ⑫ 議案の管理に関する事項
- ⑬ 財務、会計一般に関する事項
- ⑭ 財務、コンプライアンス会議の設営・運営
- ⑮ 公益社団法人日本青年会議所、近畿地区協議会、京都ブロック協議会との連携

## 6. 安心して住める乙訓<sup>まち</sup>のネットワークを構築しよう

(災害支援対策会議)

- ① 災害時の運営マニュアルの作成
- ② 災害時に於ける地域諸団体、行政との情報共有、連絡体制の確立
- ③ 災害支援対策会議の経過報告並びに検証会の開催

公益社団法人乙訓青年会議所  
第2次収支予算書(案)  
2016年1月1日から2016年12月31日まで

(第1法)

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
① 特定資産運用収入	5,000	5,000	0	
特定資産利息収入	5,000	5,000	0	
② 入会金収入	1,490,000	1,560,000	△ 70,000	
新入会員入会金収入	720,000	720,000	0	@60,000円×12名(毎月1名の入会者を想定)
特別会員入会金収入	770,000	840,000	△ 70,000	@70,000円×11名(2015年度卒業生)
③ 会費収入	8,960,000	9,350,000	△ 390,000	
正会員会費収入	8,060,000	8,450,000	△ 390,000	@130,000円×62名(1月1日現在の正会員数)
新入会員会費収入	900,000	900,000	0	1月～12月迄毎月入会者1名を想定
賛助会員会費収入	0	0	0	
④ 事業収入	400,000	818,000	△ 418,000	
事業費繰入収入	0	0	0	
登録料収入	400,000	400,000	0	文化少年団@10,000円×40名
預り金収入	0	418,000	△ 418,000	
⑤ 補助金等収入	0	0	0	
国庫補助金収入	0	0	0	
地方公共団体補助金収入	0	0	0	
民間補助金収入	0	0	0	他LOMからの補助金等(本年も無し)
国庫助成金収入	0	0	0	
地方公共団体助成金収入	0	0	0	
民間助成金収入	0	0	0	
⑥ 寄付金収入	400,000	0	400,000	
飛竹会寄付金収入	0	0	0	
歴代理事長会寄付金収入	0	0	0	
その他寄付金収入	400,000	0	400,000	まちづくり事業協賛金
⑦ 雑収入	41,500	41,500	0	
受取利息収入	1,500	1,500	0	
京都ブロック協議会受入収入	0	0	0	
その他雑収入	40,000	40,000	0	乙訓JCじゃがいもクラブ事務局費、JCカード手数料
<b>事業活動収入計</b>	<b>11,296,500</b>	<b>11,774,500</b>	<b>△ 478,000</b>	
<b>2. 事業活動支出</b>				
① 事業費支出	4,584,000	6,491,000	△ 1,907,000	
災害支援対策会議	40,000	0	0	経過報告並びに検証会
総務財政委員会	199,000	187,000	12,000	役員セミナー、7月例会、12月例会
青少年育成委員会	960,000	1,085,000	△ 125,000	文化少年団(募集含む)、3月オープン例会
JC運動発信委員会	40,000	160,000	△ 120,000	10月例会
魅力伝播委員会	165,000	450,000	△ 285,000	新入会員募集、4月メモリアル、FTセミナー
まちづくり委員会	1,250,000	0	1,250,000	5月オープン、9月まちづくり事業
資質向上委員会	780,000	0	780,000	2月オープン、6月オープン、11月オープン、研修事業
渉外交流委員会	840,000	0	840,000	1月新春、8月納涼、12月卒業式
地域力向上委員会	0	1,410,000	△ 1,410,000	5月オープン、9月地域力向上事業
研修委員会	0	1,020,000	△ 1,020,000	3月オープン、7月オープン、11月オープン、資質向上
絆委員会	0	1,080,000	△ 1,080,000	1月新春、8月納涼、12月卒業式
特別事業費支出	310,000	681,000	△ 371,000	駅伝、災害時拠出金、公開討論会
預り金支出	0	418,000	△ 418,000	
② 管理費支出	5,164,868	5,251,746	△ 86,878	
会議費支出	330,000	330,000	0	総会、総務、正副、理事会他会場費
給料手当支出	1,800,000	1,800,000	0	事務局員 @150,000円×12ヶ月
退職給付費用	105,000	105,000	0	月額給与150,000円×70%を毎年積立
福利厚生費支出	330,000	320,000	10,000	事務局員社会保険料、対内向けの慶弔金等
旅費交通費支出	100,000	100,000	0	事務局員交通費
通信・発送費支出	530,000	550,000	△ 20,000	電話代、切手、定例発送
消耗品支出	220,000	220,000	0	2016年度スローガン幕、封筒、文具他
リース料支出	21,789	21,789	0	コピー機1年間
修繕費支出	0	0	0	
印刷製本費支出	190,000	220,000	△ 30,000	総会資料印刷費、コピー機印刷費等、基本資料(12万)
光熱水料費支出	0	0	0	
賃借料支出	365,367	374,457	△ 9,090	@35,367×1ヶ月 30,000円×11ヶ月
インフォメーション関係費支出	503,000	503,000	0	おとくに新聞、サーバー、ドメイン、ホームページ変更料
保険料支出	0	0	0	
租税公課支出	6,000	6,000	0	印紙代
渉外費支出	40,000	40,000	0	対外向けの慶弔金、電報等
雑支出	623,712	661,500	△ 37,788	ネットバンキング使用料 JCバッチ 会員ネームタグ、会計士手数料他
③ 負担金支出	1,586,600	1,652,745	△ 66,145	
JCI負担金支出	101,750	97,020	4,730	@1,375円×(62名+12名)※前年度は@1,260円
日本JC負担金支出	400,000	430,000	△ 30,000	
基本金支出	45,000	60,000	△ 15,000	会員数50名迄が30,000円 25名増す毎に15,000円を追加
付加金支出	355,000	370,000	△ 15,000	@5,000円×(62名+6名)+@2,500円×6名
近畿地区協議会負担金支出	129,800	135,200	△ 5,400	
基本金支出	2,000	2,000	0	
付加金支出	127,800	133,200	△ 5,400	@1,800円×(62名+6名)+@900円×6名
京都ブロック協議会負担金支出	527,000	548,000	△ 21,000	
基本金支出	30,000	30,000	0	
付加金支出	497,000	518,000	△ 21,000	@7,000円×(62名+6名)+@3,500円×6名
国際協力資金支出	135,050	140,525	△ 5,475	@1,825円×(62名+12名)
日本JC出向者負担金支出	80,000	80,000	0	@20,000円×4名
WeBelieve購読料支出	213,000	222,000	△ 9,000	@3,000円×(62名+6名)+@1,500円×6名
<b>事業活動支出計</b>	<b>11,335,468</b>	<b>13,395,491</b>	<b>△ 2,060,023</b>	
<b>事業活動収支差額</b>	<b>△ 38,968</b>	<b>△ 1,620,991</b>	<b>1,582,023</b>	

科目	予算額	予算額	増減	備考
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入	350,000	650,000	△ 300,000	
会員基本基金資産取崩収入	200,000	500,000	△ 300,000	
周年事業引当資産取崩収入	0	0	0	
文化少年団基金取崩収入	150,000	150,000	0	
退職給付引当資産取崩収入	0	0	0	
投資活動収入計	350,000	650,000	△ 300,000	
2. 投資活動支出				
① 特定資産取得支出	500,000	500,000	0	
会員基本基金資産取得支出	0	0	0	
周年事業引当資産取得支出	500,000	500,000	0	
退職給付引当資産取得支出	0	0	0	
投資活動支出計	500,000	500,000	0	
投資活動収支差額	△ 150,000	150,000	△ 300,000	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
① 借入金収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
① 借入金返済支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	△ 188,968	△ 1,470,991	1,282,023	
前期繰越収支差額	188,968	1,470,991	△ 1,282,023	
次期繰越収支差額	0	0	0	



2016年度 公益社団法人乙訓青年会議所  
会議構成員

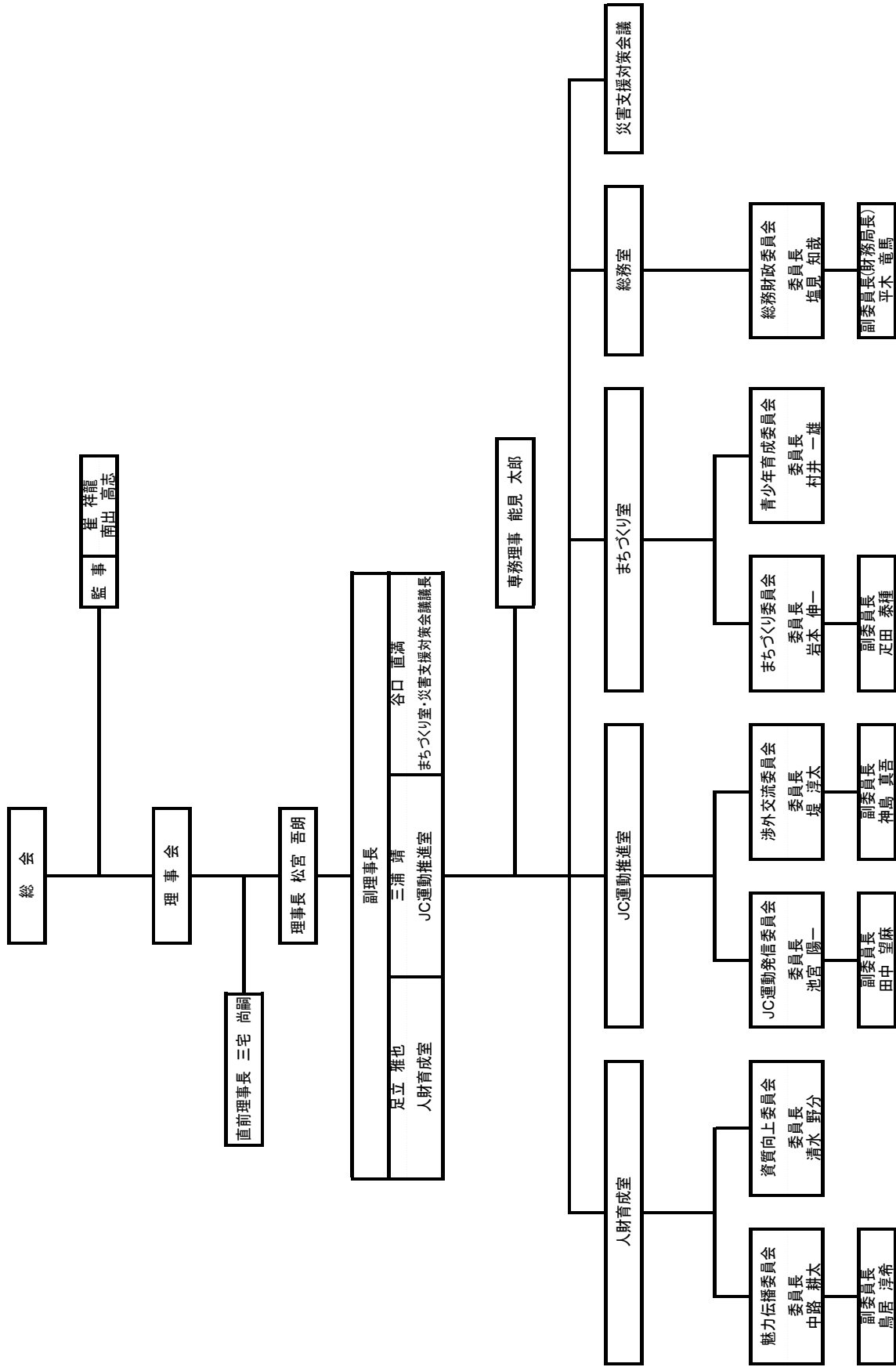
			理 事 会	正 副 理 事 長 会 議
理 事 長	松 宮 吾 朗		○議長	○議長
副理事長	足 立 雅 也		○	○
副理事長	三 浦 靖		○	○
副理事長	谷 口 直 満		○	○
専務理事	能 見 太 郎		○	○
理 事 (J C運動発信委員会 委員長)	池 宮 陽 一		○	▲
理 事 (まちづくり委員会 委員長)	岩 本 伸 一		○	▲
理 事 (総務財政委員会 委員長)	塩 見 知 哉		○	▽司会
理 事 (資質向上委員会 委員長)	清 水 野 分		○	▲
理 事 (渉外交流委員会 委員長)	堤 淳 太		○	▲
理 事 (魅力伝播委員会 委員長)	中 路 耕 太		○	▲
理 事 (青少年育成委員会 委員長)	村 井 一 雄		○	▲
理 事 (渉外交流委員会 副委員長)	神 島 真 吾		○	▲
理 事 (J C運動発信委員会 副委員長)	田 中 望 麻		○	▲
理 事 (魅力伝播委員会 副委員長)	鳥 居 淳 希		○	▲
理 事 (まちづくり委員会 副委員長)	疋 田 泰 種		○	▲
理 事 (総務財政委員会 副委員長)	平 木 竜 馬		○司会	▽
監 事	崔 祥 龍		□	□
監 事	南 出 高 志		□	□
直前理事長	三 宅 尚 嗣		□	□

※公益社団法人乙訓青年会議所定款第17条第3項の定める副理事長の職務代行順位は上段よりとする。

- ：構成員
  - ：常時出席の上、発言できる
  - ▽：常時オブザーブ
  - ▲：議長の要請を受けて出席する
- 理事会議事録：事務局長

2016年度 公益社団法人乙訓青年会議所

組織図



近年、日本各地で大きな自然災害が多発しており、乙訓地域に於いても、災害支援活動を自発的に取り組む必要があります。具体的には、社会活動の一環として、地域の方々と共に協力して災害時に於ける広域的な協力体制の構築を図る必要があります。また、市民が防災や減災に向き合う事から地域交流が始まります。そして、そこから生まれる人との信頼、思いやりや互いに助け合う精神が、共生社会を創出するきっかけになります。日頃から災害が起こり得る事を想定し、地域ネットワークを活かした迅速な伝達や適切な対応が出来る環境を創出し、災害支援対策に向けた取り組みを行わなければなりません。今こそ、我々が先頭に立って、阪神淡路大震災の教訓をもとに自助、共助及び公助体制の強化を計り、災害ネットワークを構築し、市民が一体となって自分達の地域を守るという気概を持った活力ある地域の創出に貢献する事が必要です。

まず、乙訓青年会議所が初動体制として、災害時の運営マニュアルを作成します。また、災害時には二市一町との地域ネットワークを活かし、災害時の災害支援対策本部を設置、即座に災害支援の為の情報共有し、連絡体制の確立を目指します。そして、災害支援対策会議に於いて、防災ネットワーク会議の報告及び検証を行います。次に、災害ネットワークを拡充する仕組みをより多くの防災に関わる地域の方々にも理解して頂く為に、乙訓地域に於ける防災や減災に関わる行政機関との連携の確立を目指します。その結果、災害時にも、共に力を合わせて活動し、立ち向かえる体制が整います。JC災害ネットワークと地域ネットワークを活かし、災害時の支援対策本部を設置する事で、即座に災害支援に対応出来る情報の共有が可能な連絡体制の構築を目指します。

重要な事は、世代を越え周りの人々と互いに支え合う心を育む事です。過去の被災からの教訓を生かし、防災や減災の意識を高めながら、相互扶助の精神と自分達の地域は自分達で守る郷土愛を育てていきます。そして、被災地の復興や被災者の支援を行う為には、全国に広がる青年会議所の災害ネットワークを活用し、京都ブロック内の各地青年会議所と連携を図り、迅速に支援を行います。市民がこの様な互いに支え合う心と郷土愛を日常の行動で示し続ける事で、過去の震災を忘れる事なく、「命を守る」「命を救う」為の努力の重要性を未来ある子ども達へ伝えていきます。

乙訓青年会議所メンバー一人ひとりが、向上心と意欲を持って主体的に行動し、普段から意識して災害の備えに取り組み、災害の際には即座に対応し助け合う事の出来る体制を構築します。また、災害後の支援に於いても、地域諸団体との連携を図り、JC災害ネットワークを積極的に活かしたボランティア活動を行います。そして、自分達の地域を自分達で守るといふ郷土愛にあふれた安心して住める乙訓創りに貢献出来る様に率先して行動して参ります。

乙訓青年会議所は「明るい豊かな社会の実現」の理念のもとに、この乙訓<sup>ま</sup>をより良くしようという熱い情熱と高い志を持った先輩諸兄が36年に渡り、愛郷心あふれる乙訓地域の創造に向け邁進してこられました。その脈々と受け継がれてきた熱い情熱と高い志を引継いだ我々現役メンバーは、一人ひとりが組織の方向性や考え方を再認識して、「誇れる組織」の構築に繋げていく必要があります。また、乙訓青年会議所の存在価値を高めて一人でも多くの賛同者を増やし、地域の負託と信頼を得る事が必要不可欠です。

本年度は、乙訓青年会議所の活動内容や運動を広く知って頂く為に、まずホームページでは例会や各種事業の告知や報告を正確に情報開示する事で、乙訓青年会議所の透明性を持った信頼ある情報を発信致します。そして、SNSでは写真や動画を用いて活動風景をリアルタイムに更新する事で、より多くの方に私達の存在を認識して頂きます。更に、新聞では取材を通して行政や地域諸団体と連携を図ると共に、内容やデザインに工夫を凝らし積極的に配布する事で、地域の方々と情報の共有を図ります。この3つの手法を相互にリンクさせて発信する事で、組織の存在価値を高め乙訓青年会議所運動の賛同者を増やします。そして、各種事業を記録した動画を徹底して管理し、写真に関しては、ホームページの資料室に整理して保存出来るシステムを構築する事で、メンバーが今後の事業に於ける資料の共有を実現致します。また、出向に取り組む姿勢や事業趣旨をメンバーに伝達する為に、京都ブロック協議会会長公式訪問で1年間の方向性や想いを話して頂き、メンバーが理解した上で様々な京都ブロック事業の参画を促す支援を致します。そして、京都会議では乙訓青年会議所の看板を背負い出向するメンバーを激励し、サマーコンファレンスでは、これまでの活動を誇る為に、それぞれLOMナイトを設え出向者の支援に尽力致します。更に、メンバーの出向意欲を高める為に、各方面で活躍されたメンバーが、出向に至った経緯や様々な活動を通して得た多くの気づきや学びを伝える例会を10月に開催し、メンバー全員に乙訓青年会議所の誇りと気概を共有して頂きます。また、新たな人脈のきっかけ創りの為に、様々な職種の方々が集う異業種交流会を行い、ビジネスや対外発信力強化に繋がる機会を創出致します。そして、高い志を持った魅力的な人財を一人でも多く増やしていく為にも、率先して会員拡大に取り組んで参ります。更に、地域の方々が安心して住める乙訓<sup>ま</sup>にする為に、災害支援対策会議に参加協力致します。

乙訓青年会議所の運動発信を担う重要な委員会として、まず私自身が率先して行動し委員会メンバーを引っ張っていきます。委員会メンバーには何事にも明るく前向きに捉えながら事業に参加して頂くと共に、責任を持つ重要性和周りの方々に情報発信していく楽しさを感じて頂きます。メンバー一丸となって誇れる組織を大いに発信して参ります。

乙訓青年会議所は、我々の誇り高き先輩諸兄が乙訓地域のより良い未来の為に高い志とあふれる情熱を持って運動してこられ、創立37年目を迎えました。そして、二市一町の行政や地域諸団体との信頼関係やネットワークが日々、構築されてきています。更に地域力を向上し愛郷心を育てていく為にも「明るい豊かな社会の実現」を目指し、未来に向かって歩みを進めていく必要があります。

まずは、一人でも多くの市民が自らの住まう乙訓地域に関心を持ち、知っていく事で、まちづくりに対しての「意識」が高まります。そして、行動を起こしていく「意欲」となり、まちづくりへの主体者意識を持つ事になると考えます。更には、乙訓<sup>ま</sup>ち<sup>ち</sup>に対しての愛着を持つ事になり市民主導型社会への実現に繋がっていきます。乙訓<sup>ま</sup>ち<sup>ち</sup>地域では、素晴らしいまちづくり運動をされている地域諸団体が多数あり、乙訓<sup>ま</sup>ち<sup>ち</sup>の為に日々奔走しておられます。そして、より素晴らしい運動をして頂くと共に我々の有意義な事業開催の為に、率先して相互連絡、意見交換、共同事業を展開し、より強固な信頼関係を築き、運動の一助となる様行動していかねばなりません。更に地域資源である市民、行政、地域諸団体が三位一体となる為にパイプ役となり、「夢と誇りを持てる乙訓<sup>ま</sup>ち<sup>ち</sup>創り」への実現に繋げて参ります。

5月オープン例会では、まずは自分が変わり積極的に地域の為に行動する事でまちづくりへの主体者意識を高めると共に地域活性に繋がると認識頂ける例会を開催し、9月のまちづくり事業へと繋げていきます。そして、9月例会ではまちづくり事業の成功に向け、乙訓青年会議所メンバー全員が更に結束を固め自覚と意識を再確認して頂ける例会を開催致します。また、まちづくり事業では、地域の皆様と共に我々の住まう地域をより愛し、活気に満ちあふれた乙訓地域の実現に向かって頂ける夢のある事業を開催し市民主導型社会の実現に繋げて参ります。そして、二市一町の行政、地域諸団体との更なるネットワークの強化に向けて取り組みます。また、次代を担う青少年の育成の為に同室である青少年育成委員会と連携し、青少年育成事業に対しても積極的に参加致します。今後の乙訓青年会議所が未来永劫発展する為に、一人でも多くの同志を募り、会員拡大に積極的に取り組みます。そして、安心して住める乙訓<sup>ま</sup>ち<sup>ち</sup>のネットワークの構築の為、災害支援対策会議にも積極的に参加し、災害支援対応の出来る情報共有、連絡体制の構築に努めます。

最後に、本年度まちづくり委員会では「We love 乙訓」をテーマとし、私自身が率先して乙訓<sup>ま</sup>ち<sup>ち</sup>をより良くしようとする気概を持ち活動します。まずは、想いをしっかりと伝え、「何の為に」を委員会メンバーに理解して頂き、一人ひとりが自分の考えを持って意見出来る委員会運営を行います。そしていかなる苦難の時もお互いに助け合い、信頼関係を築く事によって一枚岩となり、笑顔で乗り越え素晴らしい委員会になる様に1年間邁進して参ります。

乙訓青年会議所の先輩諸兄は「明るい豊かな社会」の実現に向け、熱い情熱と高い志を胸に活動してこられました。そして、37年目を迎える我々も先輩諸兄の想いを引き継ぐべく、JAYCEEとしての誇りを胸に地域の負託と信頼に応え続けていかなければなりません。また、組織として守るべき「約束事」や「決まり事」を周知徹底すると共に、公益団体として信頼性のある組織基盤を確立し、次代へと引き継いでいく必要があります。

本年度、総務財政委員会は会議設営や運営面に於いて、先輩諸兄が築き上げてこられた会議体制を継承する事はもとより、命とも言える貴重な時間の中でより濃密で実り多い会議が行える様に取り組んで参ります。その為にも、各委員会とコミュニケーションを密に図り、進捗状況の確認を行う事により議案の送信期日を厳守し、円滑な会議運営が行える様に取り組めます。

青年会議所の事業は背景、目的、手法を盛り込み「計画、実行、検証」のプロセスで形成されます。会議運営を担う委員会として「何の為に」という事を常に意識して活動し、運営方法や予算編成、予算執行、コンプライアンスに関する審査を適正に行います。そして、財政面では、会員一人ひとりの年会費から事業予算が捻出されている事を念頭に置き、予算に不備が無いかを確認するだけではなく、事業目的に対する費用対効果も審査すると共に、各委員会の想いが込められた青年会議所運動が全力で成し遂げられる様に致します。また、運営基盤を確立する為に、会議運営システムやルールを周知徹底する事務事項説明会を開催し、LOM運営マニュアルや会員名簿、基本資料を作成致します。更に、役員セミナーでは、理事長より1年間の活動方針と方向性について示して頂くと共に、経験豊富な先輩から創立当初より受け継がれてきた誇りや伝統を次代に繋いでいく為に「JCの約束事」や「JCの決まり事」を念頭に置き、役員としての責任と自覚について伝えて頂きます。7月例会では、我々の活動が「何の為に」行うのかにこだわり、更に信頼される公益団体になる為に、組織として守るべき定款、運営規則、総会や会議の重要性を学んで頂きます。12月例会では、1年間の集大成として、本年度の様々な活動を振り返って頂き、顕著な活動を行ったメンバーを称えると共に、次年度の活動の糧になる例会を開催致します。また、組織をより強固にする為に、積極的に会員拡大に取り組み、あらゆる事業に率先して参加協力致します。

何事にも真剣に取り組む姿は、多くの人々の心を動かします。会員がお互いを支え合う事により、強い信頼関係が生まれます。まずは、自分を律し、何事にも前向きに日々のJC活動に取り組む姿を見せ、メンバーとの絆を更に深め、JC活動が出来る歓びを周囲に伝播致します。そして、組織の中樞を担う委員会として、全てのメンバーがJC活動に誇りを持てる様に全力でサポートして参ります。

1979年歴史情緒香るこの乙訓の地に、先輩諸兄は明るい豊かな社会の実現を目指して乙訓青年会議所を誕生させました。そして、目標を実現する為に地域に誇るリーダーを生み出し育成しながら、困難な壁にも挑戦をし続けてこられました。どんな時にも自分に打ち勝つ気概を持ち、自ら能動的に行動し、変革をもたらして来られた乙訓の先輩諸兄、現役メンバーはその熱い想いを引き継ぎ積極的に様々な問題と向き合わねばなりません。

昨今の時代になり、夢を描いて目標を高く掲げ、そこに向かって挑戦をしようとする若者は減少している傾向にあります。また、地方から東京への一極集中化が進み郷土愛も薄れているのが現状です。まずは、青年会議所メンバーが模範となり、地域に誇る真のリーダー像を描き、学び、確立していく必要があります。私達は、青年経済人として個人の自立性と社会の公共性が協和する時代を築かねばなりません。JAYCEEとして、立派な経済人でありながら、社会の問題にも無関心な存在ではいけません。これを両立させてこそ、次代を築く一翼を担えるはずで

そこで本年度、資質向上委員会では、理事長が掲げる「笑超蒼天」のスローガンを胸に抱き、乙訓青年会議所をより魅力ある組織にする為、地域に貢献出来るリーダーを育成します。その為に、3回のオープン例会を開催し真のリーダーとして必要な資質を学びます。そして研修事業ではメンバーの皆様地域をより深く知って頂き、足元で見落としがちな文化を再確認し、郷土愛を育みます。また、乙訓の地で活躍したリーダーを学ぶ事により、多くのリーダー像を模索する一助とします。2月例会では、実際に地域に根差したビジネスを展開するリーダーから自身の経験をお伝え頂き、ビジョンを描いて頂くきっかけと致します。経済的にも社会的にも地域に貢献するリーダー像を学び、各自が理想のリーダー像を確立出来る一助とします。また、6月例会では計画を実行する力、目標を達成する思考を学び、自らを当事者として動かせる事の重要性を学んで頂きます。11月例会では、変革の能動者として、周囲を巻き込んでいける力を学んで頂きます。リーダーの資質として、仲間や組織に連動させる力を持たずして真のリーダーとは言えません。3回の例会と1度の研修事業により必ずや地域に貢献出来る真のリーダーに各々が近づいていると確信します。また、メンバー共通の担いである会員拡大活動に率先して取り組み魅力伝播委員会への連携と協力、まちづくり事業、青少年育成事業への参加、災害支援対策会議との連携と協力にも積極的に取り組んで参ります。

結びに、本年度資質向上委員会に配属されたメンバーが、明るい豊かな社会の実現を目指し、個々に於けるリーダーとしての足りない要素を探しながら切磋琢磨し、思い描く理想のリーダー像へと近づいていく。託されたメンバーが最後には、この委員会に配属されて良かったと笑い合い、真のリーダーへの道を歩き出す、そんな委員会運営を展開して参ります。

乙訓青年会議所は36年間に渡り「明るい豊かな社会の実現」に向けて活動してきました。これまでに先輩諸兄が地域貢献によって築き上げられた地域との信頼関係は何ものにも替え難い財産となり、脈々と引き継がれています。今後も我々青年が、この乙訓まに対して愛着を持ちここに住んでいる喜びを自分自身の「誇り」としながら、市民、行政、地域諸団体と共に率先して行動していく事で、これを更に良いものへ発展させなければなりません。

乙訓まに対する愛着を持ち住んでいる喜びを「誇り」とするには、我々乙訓青年会議所のメンバー自身が所属する組織に愛着を持ち、活動している内容に誇りを持つ事から始まります。組織への愛着の根底にはメンバー同士の真の絆が必要不可欠であり、また、活動内容への誇りには会議や事業等の趣旨や実施意義への深い理解が必要不可欠です。今年度渉外交流委員会では、相互理解による真の絆を構築し、事業実施意義の発信によって活動内容への深い理解を達成する事で、明るい豊かな社会の実現へ向けて一丸となって活動する乙訓青年会議所を作り上げます。

1月例会・新春交歓会では、「笑超蒼天」に込められた理事長の想いや1年間の方向性を、メンバーを始めご参加頂く行政関係者、特別会員、他LOMの皆様へ発信し、今後の取り組みにご協力頂ける環境を整えます。例会では厳粛に、新春交歓会では会場全体が楽しむ事が出来る設えとする事で、乙訓青年会議所の個性も発信します。3LOM合同交流会では、近隣LOM同士の親睦を深め広域なまちづくりに繋がる交流会を開催します。8月例会では、前半の活動を振り返り、後半に向けて一層の活気を持って事業に取り組む事に繋がる例会を開催します。納涼会では、メンバー同士の懇親を深める事によって乙訓青年会議所がより一層団結出来る交流会とします。卒業式では、卒業生の在籍期間に於ける功績を称え、メンバー全員の青年会議所運動に対する意識が更に高まる式典を開催します。忘年会では、1年間の活動を労うと共に次年度への新たな気持ちを醸成する事が出来る場とします。また、会員同士が切磋琢磨する事で懇親を深める事が出来る事業並びに、日頃からJC活動を支えて頂いているご家族や社員の方へJC活動への理解と感謝の気持ちを伝える事が出来る事業を開催致します。渉外活動では、JCI、日本青年会議所、近畿地区協議会、京都ブロック協議会、各地青年会議所の各種案内に対して、実施意義をメンバーにしっかりと伝えていく事で参加動員増と学びの促進に努めます。そして、同室のJC運動発信委員会やLOM全体で取り組む事業に積極的な連携協力を行う事で、青年会議所運動の輪が更にこの乙訓まに広がる様に尽力して参ります。

委員会に於いては、JAYCEEとしてより困難な「いばらの道」を選択するJCスピリットを体現する委員長の背中を示しながら、委員会が一丸となり、困難な道を踏破するからこそ味わう事の出来る素晴らしい感動をメンバー全員と共有出来る様日々精進致します。



乙訓青年会議所は1979年に「明るい豊かな社会の実現」を理想とし、この乙訓をより良くしようという熱い情熱と高い志を持った若者によって創立されて以来、長きに渡る先輩諸兄の弛まぬ努力でその燈火を受け継ぎながら運動を展開してこられました。40歳で卒業という限られた時間の中で、各地青年会議所の会員数が減少傾向にある状況下で、乙訓青年会議所は会員数を維持しているものの、増加には至っていません。今こそ、一人ひとりが持つ力を集結させ、何事にも前向きに取り組む姿勢を感じて頂き、青年会議所活動の魅力を伝播していく必要があります。

まずは、自分がやるしかないという、あふれる情熱と高い志を持って受け継がれてきた乙訓青年会議所の魅力を共有すると共に、伝える力を養って頂く為に、1月オープン委員会を開催し、会員拡大活動は仲間を増やす楽しい活動であると認識を持って頂きます。そして、新たな仲間を増やす為に、年間を通じてめりはりのある入会説明会を開催し、入会前のサポートを行う事によって乙訓青年会議所の運営維持と組織の基盤強化に繋げていきます。更に、4月には伝統ある乙訓青年会議所の設立をお祝いすると共に、前向きに苦難を乗り越えていく気概や脈々と受け継がれてきた誇りを次代へ繋ぐという意識の醸成を図る為に、メモリアル100%出席例会を開催します。また、10月には次代を担うリーダーとしての意識を高め、青年会議所の基礎知識や活動意義を理解して頂く為に、FTセミナーを開催し、新入会員の入会後のサポートと共にFMメンバー同士の絆の構築に加え、メンバー同士の更なる友情の深耕に繋がります。そして、1年間の会員拡大活動を検証し、次年度へ引き継ぐ為に、12月オープン委員会を通じてメンバー全員で行ってきた会員拡大活動を振り返る機会を創出します。更に、会員拡大活動に対するメンバー全員の意識の向上と情報の共有化を図る為に、様々な情報を発信し、これまでの手法に工夫を凝らしメンバーの会員拡大に繋がります。また、地域に貢献出来るリーダーを育成する為に、資質向上委員会と連携し、乙訓青年会議所の魅力を増幅させます。そして、乙訓青年会議所の魅力を再認識する為に、まちづくり事業や青少年育成事業に委員会メンバーで積極的に参加し、協力していきます。更に、地域に住まう方々が安心して住める乙訓にしていく為に、災害支援対策会議が検討する地域ネットワークを共に考え、協力していきます。

魅力的な人財は魅力的な組織に集うという考えのもと、本年度魅力伝播委員会では25名の会員拡大をします。そして、委員会メンバー自身が会員拡大は地域貢献に繋がる究極の青年会議所活動である事を理解し、己を律する事が出来る笑超蒼天の気概を持った人財へとなって頂きます。その結果、青年会議所の魅力を魅力ある人財が共有し、地域に伝播すれば情熱の燈火は私達の乙訓を明るく照らすと確信します。

昨今、我々の住む乙訓地域を含む一般社会では、年々核家族化が進んでいる影響により、祖父母やご近所の方々が子どもを叱る事や自身の体験を語り道徳心を学ぶ機会が減っています。一般社会で指摘されている青少年問題は、子ども達だけの責任ではなく我々大人のモラル低下が多くの原因を占めている事を理解し、意識を変えていく必要があります。

乙訓青年会議所では、設立当初より先輩諸兄が未来を担う子ども達に夢を与え、乙訓に愛郷心と誇りを育て欲しいと願い、青少年育成事業にご尽力してこられました。我々がその想いを引き継ぎ、子ども達に豊かな人間性を育む環境を整え、体験してきた道徳心を言葉ではなく背中を見せ教える事で、子ども達に良い影響を与えられると考えます。また、子ども達と目線を合わせ真剣に向き合う事で、子ども達の考えを心から理解し「他者への思いやり」や「生命尊重・人権尊重の心」という道徳心を学ぶ機会の創出に繋げる必要があります。そして、我々大人がモラルを持ち、手本になり憧れられる大人になる事で、青少年の健全な育成に発展し「明るい豊かな社会の実現」に繋がると考えます。

ケイジャーズカップでは、将来地域のリーダーとなる青少年を長期的にサポートする事を目的に、大会の実行委員会と連携し、青少年の夢の実現に尽力致します。3月例会では、未来を担う子ども達と真剣に向き合う憧れられる大人を目指し、大人が子どもとの関わり方を学ぶ事が出来るオープン例会を開催し、大人が改めて道徳心を考える設えに致します。乙訓文化少年団では、年9回の開催を通して学校や家庭とは違った地域交流の場で「他者への思いやり」の心を育み、保護者の方々も一緒に参加したくなる様、毎回事業の意味を考え、楽しみながら人間関係を形成出来る設えに致します。第13回目を迎える乙訓ふるさとふれあい駅伝では、子ども達が沿道や地域の温かい声援を受けながら走る事で、責任感と連帯感を感じると共に愛郷心を育てる様、実行委員会と連携し、競技に集中出来る環境を整えます。そして、青少年育成事業で未来を担う子ども達の健全な育成に努める事は、将来的な地域の成長に繋がります。子ども達に地域の方々と関わる場を設け、地域と共に成長出来る機会を提供する為に、まちづくり委員会と連携協力した事業を開催致します。そして、災害支援対策会議に積極的に推進協力し、防災教育も踏まえ、安心して住める乙訓のネットワークの構築に尽力致します。会員拡大運動は、メンバー全員の責務と考え積極的に会員拡大に努めます。

最後に、委員会メンバーには「質実剛健」の心で、事業を通し、強くたくましく成長して欲しいと考えます。また、私自身が先頭に立ち、メンバー全員が率先して行動出来る環境を整える事でメンバーの絆の構築を図ります。そして、子ども達に背中をみせられる様、委員会メンバーと共に道徳心を持った憧れられる大人になり、未来の地域を輝かせる愛郷心と誇りを持った子ども達を育てる為、全力で活動して参ります。



【公益社団法人日本青年会議所】

平成の防人委員会	会計幹事	南出 高志
平成の防人委員会	委員	下平 祐婦子
規則審査会議	議員	内海 義潔
憲法意思確立委員会	委員	足立 雅也

【公益社団法人日本青年会議所 近畿地区協議会】

総務・広報戦略委員会	委員長	三浦 靖
総務・広報戦略委員会	総括幹事	鳥居 淳希
総務・広報戦略委員会	副委員長	内海 義潔
総務・広報戦略委員会	副委員長	厚東 聖一
総務・広報戦略委員会	委員	上田 崇博
総務・広報戦略委員会	委員	豊西 寛行
総務・広報戦略委員会	委員	村中 志津佳
地域活力創生委員会	委員	谷川 真也
地域活力創生委員会	委員	谷口 直満
近畿地区協議会事務局	会長補佐	國府 勝也
近畿地区協議会事務局	次長兼会長特別補佐	丁ヶ阪 悠佑

【公益社団法人日本青年会議所 近畿地区 京都ブロック協議会】

	監査担当役員	三宅 尚嗣
	副会長	足立 雅也
公益財政委員会	副委員長	大橋 一隆
公益財政委員会	委員	下戸 一晃
公益財政委員会	委員	近藤 宏和
公益財政委員会	委員	松本 美由紀
国際交流推進委員会	副委員長	平木 竜馬
国際交流推進委員会	委員	佐伯 昌裕
国際交流推進委員会	委員	疋田 泰種
国際交流推進委員会	委員	益田 新
ブロック大会運営委員会	副委員長	佐々木 彰吾
ブロック大会運営委員会	委員	今井 政樹
ブロック大会運営委員会	委員	内海 義潔
ブロック大会運営委員会	委員	田中 望麻
ブロック大会運営委員会	委員	百々 尚輝
J C運動推進委員会	委員	榊原 政人

J C運動推進委員会

委 員

山田 高広

J C運動推進委員会

委 員

山脇 裕文

総務情報委員会

委 員

神島 真吾

総務情報委員会

委 員

下平 祐婦子

総務情報委員会

委 員

宮下 祥平

2016年度 公益社団法人乙訓青年会議所 年間公式スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総 会	第1回通常総会 31日(日)									第1回臨時総会 5日(水)予定		第2回臨時総会 2日(金)予定
例 会	8日(金)	11日(木)	10日(木)	14日(木)	12日(木)	9日(木)	14日(木)	11日(木)	11日(日)予定	13日(木)	10日(木)	8日(木)
理 事 会	15日(金)	18日(木)	17日(木)	21日(木)	19日(木)	16日(木)	21日(木)	18日(木)	15日(木)	20日(木)	17日(木)	15日(木)
正副理事長会議	6日(水)	4日(木)	3日(木)	7日(木)	5日(木)	2日(木)	7日(木)	4日(木)	1日(木)	6日(木)	3日(木)	1日(木)
総務財政委員会	28日(木)	25日(木)	24日(木)	28日(木)	26日(木)	23日(木)	28日(木)	25日(木)	22日(木)	27日(木)	24日(木)	22日(木)
青少年育成委員会	19日(火)	16日(火)	22日(火)	19日(火)	17日(火)	21日(火)	19日(火)	16日(火)	20日(火)	18日(火)	22日(火)	20日(火)
まちづくり委員会	27日(水)	24日(水)	30日(水)	27日(水)	25日(水)	29日(水)	27日(水)	24日(水)	28日(水)	26日(水)	30日(水)	28日(水)
資質向上委員会	20日(水)	17日(水)	23日(水)	20日(水)	18日(水)	22日(水)	20日(水)	17日(水)	21日(水)	19日(水)	23日(水)	21日(水)
JC運動発信委員会	18日(月)	15日(月)	21日(月)	18日(月)	16日(月)	20日(月)	18日(月)	15日(月)	19日(月)	17日(月)	21日(月)	19日(月)
魅力広播委員会	25日(月)	22日(月)	28日(月)	25日(月)	23日(月)	27日(月)	25日(月)	22日(月)	26日(月)	24日(月)	28日(月)	26日(月)
JC説明会		1日(月)	7日(月)	4日(月)	2日(月)	6日(月)	4日(月)	1日(月)	5日(月)	3日(日)	7日(日)	
渉外交渉委員会	5日(火)	2日(火)	1日(火)	5日(火)	3日(火)	7日(火)	5日(火)	2日(火)	6日(火)	4日(火)	1日(火)	6日(火)
そ の 他	事務局開き6日(水) LOMナイト23日(土)	マイスター卒業式 10日(水) 14日(日)									ふるさと秋祭り 26日(土) 予定	卒業式・忘年会 8日(木) 事務局長始め 27日(火)予定
京都ブロック協議会	新春訪問 会長LOM訪問 31日(日)		会長公式訪問 9日(水)予定 拡大セミナー 22日(火)		ブロック大会 京丹後 29日(日)予定	国際事業・ASPAC 2日(木)～5日(日)		ブロックアカデミー 28日(日)		本次年度合同会議 22日(土)		
府内青年会議所周年				山城周年 9日(土)予定		城陽周年 26日(日)	京都周年 21日(木)予定					
" 会員会議所	30日(土) 福知山	27日(土) 山城	24日(木) 舞鶴	30日(土) 亀岡	20日(金) 京丹後	24日(金) 乙訓	23日(土)予定 未定		24日(土) 宮津		25日(金) 綾部	
" 正副役員会議	12日(火)	13日(土)	11日(金)	8日(金)	7日(土)	11日(土)	9日(土)		10日(土) 乙訓	4日(火)	12日(土)	
" 財政特別審査会議 ンプライアンス審査	19日(火)	20日(土)	20日(土)	16日(土)	14日(土)	18日(土)	15日(金)		17日(土)	15日(土)	19日(土)	
近畿地区協議会						近畿サテライト・エールワ 30日(木) 予定	GTS 2日(土)～3日(日) 近畿地区大会 茨木 9日(土)～10日(日)					
NOM主要事業	京都会議 (京都) 21日(木)～24日(土)						サマー・コンファレンス (横浜) 16日(土)～17日(日)		全国大会 (青森) 6日(木)～9日(日)			
JCI諸会議											JCI世界会議 (カナダ/ケベック) 1日(火)～6日(日)	